審査委員

枢密顧問官侯爵　井上勝之助
枢密顧問官子爵　石黒　忠悳
枢密顧問官　有松　英義
枢密顧問官伯爵　珍田　捨己
枢密顧問官男爵　中村雄次郎
枢密顧問官男爵　古市　公威
枢密顧問官　平沼騏一郎
枢密顧問官　松室　致
枢密院議長子爵　浜尾　新殿

3　内外ノ論調

三二三　一月二十三日(着)　在英国林大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

日ソ条約調印ニ関スル当地新聞報報告ノ件

第二七号

二十二日当地諸新聞ハ日露条約調印ヲ報セル北京電報ヲ掲載シ居レルカ右ニ付 Telegraph 外交記者ハ協定各項ニ説明ヲ加ヘタル上欧米何レノ国ヨリモ更ニ過激主義ヲ嫌悪スル統治階級及伝統ヲ有スル日本カ対露協定ニ於テ他ヨリ数歩ヲ進メタルハ一奇ナルモ日本ハ之ニ依リ樺太ノ油田、西比利亜ノ石炭ニ関スル利権並北樺太占領中ノ企業継続権等ノ最重要ナル経済的利権ヲ獲得シ経済上ノミヨリスルモ日本カ其産業及科学上ノ能力ヲ傾ケテ西比利亜ノ富源開発ニ努ムル時ハ其成果恐ル可キモノアルノミナラス現存日露条約ノ改訂ニ依リ生ス可キ両国ノ政治的協商ヲ以テ之ヲ補フ時ハ極東殊ニ支那ニ於ケル勢力均衡ニ対シ著シキ変化ヲ来スニ至ルヘシト為シ会商地ノ北京タル事及在支公使館ノ陞格ヲ挙ケ支那ノ不平等条約廃棄論者ヲ刺激シ延テハ日露両国カ支那ニ於ケル「モンロー」主義双軸タル可キ日遠カラサル可ク近来日本政治家カ太平洋移民問題解決ノ途ハ日露丈ノ提携ニ在ルノミナル事ヲ声明シツツアル事並我外交官ノ更迭ニ言及シ這般ノ情勢ヲ窺フニ至ルト為シ最後ニ「ベッサラビア」ニ関スル連合国間協定ニ関シ英仏カ既ニ之ヲ批准セルモ伊国カ之ヲ回避シ居ル今日日本カ之カ不批准ヲ約シタリトセハ同協定効力発生ニ必要ナル定足数ハ遂ニ得ラレサル可シト論シ P. O. 紙、「マンチェスター・ガーヂアン」モ亦三年越行悩ミ来レル日露交渉ノ纏マレルハ日本ノ対米思惑ニ促サレタルモノニシテ「ヒューズ」国務卿ノ辞任ノ結果米国ノ対露態度ハ相当緩和セラレ其太平洋ニ於ケル通商上ノ利益擁護ノ必要ヨリ米国カ露国ニ対シ従来ヨリモ友好的態度ニ出スヘキヲ慮リ日本カ之ニ先鞭ヲ着ケタルモノナリトノ観測ハ当ラスト雖モ遠カラサルヘシトノ趣旨ノ社説ヲ掲ケタリ

三二四　一月二十三日(着)　在米国吉田臨時代理大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

日ソ条約成立ニ関スル米国新聞情報報告ノ件

第三二号

二十二日新聞報

㈠日露協定ハ日本外交ノ成功トシテ諸新聞之ヲ報ス Baltimore Sun 及「ハースト」紙華府通信員「ボラー」及「ハイラム・ヂョンソン」ハ本協定ハ日露通商同盟トモ称ス可キモノニテ米国ノ利益ニ反スト為シ其他ノ議員モ東洋ニ対スル米国ノ石油、石炭輸出ニ大打撃ヲ与ヘ北太平洋ニ於ケル日本ノ地位ヲ固ムルモノナリトノ意見ニ一致スト報シ「ハースト」紙ハ米露関係復活ノ要ヲ論ス紐育「タイムス」ハ社説ニ於テ英仏ノ露国承認ハ通商振興及賠償問題等ヲ含メル為不結果ニ終リツツアルモ日本ハ明確且具体的ナル石油及石炭、木材ノ利権獲得ヲ目的トスルモノナレハ日本カ本協定ノ収穫ヲ確保ス可キハ疑ナシ但シ両国間ノ此種協定ハ本来ナラハ支那問題ニ対スル両国ノ協調提携ヲ意味スルモノナルモ帝国主義、資本主義ニ挑戦シツツアル現過激派政府ノ結フ条約ハ結局 Modus Vivendi ニ過キサルモノニテ本協定ノ結果両国ハ暫ク対峙シテ相監視スルノ体ニ置カレタルニ過キス極東ノ政局ニ対スル本協定成立ノ効果ハ未タ之ヲ予断シ難シト論シ其他社説ヲ掲ケタルモノ少シ

㈡二十一日上院ハ(イ)往電第二六号「ジョンソン」案ニ委員会修正案ヲ加ヘ賠償協定ノ写及協定成立ニ関連スル諸般ノ事情説明書ヲ上院ニ提出方国務卿ニ求ムル旨ノ決議案ヲ可決ス（決議案郵送ス）

(ロ)往電第八号海軍予算案ヲ可決ス該案中米国ト外交関係ヲ有スル諸国ヲ海軍若クハ陸軍縮小会議ニ招請スルノ権限ヲ大統領ニ付与シ且右招請方大統領ニ求ムル旨挿入可決セリ

(ハ) Makellar ハ最近英国ノ建造セル Nelson 及 Rodney ノ両艦カ飛行機搭載ノ設備ヲ有ストノ報道ニ関連シ右ハ船艦

及航空母艦ノ結合ナリトセハ航空母艦ニ関連スル華府条約ニ抵触スル所ナキヤ英国政府ニ問合セ結果報告方大統領ニ求ムル旨ヲ往電第二九号ニ加ヘ一個ノ案トシテ提出ス

三二五　一月二十三日　在奉天内山総領事代理ヨリ　幣原外務大臣宛

日ソ条約成立ニ対スル一中国人ノ感想報告ノ件

機密公第三九号　（一月二十八日接受）

大正十四年一月二十三日

在奉天　総領事代理　領事　内山　清（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

日露協約成立ニ対スル支那側ノ感想ニ関スル件

本件ニ関シテハ一月二十二日付機密郵電第三五号末段ニ申進置候次第モ有之候処該協約カ成立シタルコトハ二十一日発行ノ当地邦字新聞ニ発表セラレ漢字新聞モ本二十三日該協約ノ全文（東方電ニ依ル）ヲ掲載スルニ至リタリト雖明二十四日ヨリハ恰モ旧正月ニ相当シ漢字新聞ハ数日間休刊スヘキヲ以テ本協約成立ニ対スル支那新聞紙ノ論評等ヲ見

ルコト能ハサルモ本件ニ関連シ省長公署諮議丁鑑修カ二十二日本官ニ談話セル処大要左記ノ通ニ有之候

当地方官民ハ一般ニ世情ニ疎ク且敏感ナラサルヲ以テ日露交渉成立シタリトテ今直ニ纏マリタル意見ヲ懐ク迄ニハ至ラサルヘキモ幾分排日的気分ヲ有スルモノハ該協約ノ成立ニ依リ日本ハ露西亜ト提携シ支那乃至東三省ヲ圧迫セントスルモノナリトノ感ヲ有スヘシ元来当地方人士ハ大官連ト雖世界的ノ事情ニ暗ク総テノ判断ヲ東三省本位ニテナスノ傾アリ往年露西亜カ満州ヲ侵略シ之カ勢力ヲ制禦シタル日本モ亦露西亜ト略同一ノ態度ニ出テタルヲ以テ日露両国ノ満州ニ対スル方針ニ付テハ当地方民ハ先天的且伝襲的ニ猜疑ノ眼ヲ以テ観察シ此ノ点ニ関シテハ尋常一様ニテ彼等ノ蒙ヲ啓クコト困難ナリト思考セラル

東三省トシテハ将来露西亜ニヨルヨリモ日本ト提携セサルヘカラサルコトハ少シク世界的知識ヲ有スルモノナレハ容易ニ判明シ得ヘキ筈ナルモ最近支那ニ於ケル赤化運動漸ク甚シキモノアリ国民党ハ「カラハン」ト提携シテ一般民衆ニ迎合スル為反帝国主義ノ宣伝ニ努メツツアリ私見ニ依レハ「カラハン」ノ背後ニハ尚米国ノ後押シアリトモ想像セラレサルニ非ス何レニシテモ現在ノ如ク軍閥カ専横ヲ極メ居ル時代ニ於テハ労農政府ノ主張スル主義ハ却テ民衆ヨリ歓迎セラルルノ現象ヲ呈シツツアリ此ノ間ニ於テ日本ノ満州ニ於ケル機関カ全然不統一ニシテ支那側ヨリ見レハ日本側カ其対満政策ニ関シ同志打ヲナシツツアルヤノ感ナキニ非ス東三省当局ト日本カ相提携シ露西亜ヲシテ往年ノ如キ満州侵略ヲナサシメサラント欲セハ先ツ日本側カ満州ニ於ケル諸機関ヲ統一シ苟モ其ノ方針二途ニ出ツ（サ？）ルカ如キコト必要ニシテ茲ニ至レハ当省当局モ始メテ日本ニ信頼スルニ至ルヘク不徹底ノ方針ハ益々日本ノ権威ヲ損フニ至ルヘキモノナリ云々

右何等御参考迄報告申進候　敬　具

本信写送付先　在支公使

三二六　一月二十三日　太田警視総監ヨリ　幣原外務大臣他宛

日ソ交渉成立ニ関シ日本労働総同盟会長鈴木文治ノ漏ラセル感想申報ノ件

労秘第一一〇号　（一月二十六日接受）

大正十四年一月二十三日

警視総監　太田　政弘

内務大臣　若槻　礼次郎殿

外務大臣　幣原　喜重郎殿

東京警備司令官　菊池　慎之助殿

社会局長官　長岡　隆一郎殿

京都、大阪、神奈川、愛知、兵庫、千葉、山梨、群馬、福島、栃木、各庁府県長官殿

日露交渉成立ニ対スル鈴木文治ノ感想ニ関スル件

日本労働総同盟会長鈴木文治ハ首題ニ関シ当庁視察員ニ漏シタル感想左記ノ如シ

記

一、日露国交回復ニ関スル交渉ハ過去五ケ年余ニ亘リ幾多曲折ヲ経テ漸ク成立今回其ノ調印ヲ了シタルハ遅レ乍ラモ両国ノ為メ祝福ニ堪ヘス吾人労働者階級ハ既ニ五年前ノメーデーニ労農露西亜ヲ承認スヘシトノ標語ヲ以テ日露国交回復ヲ絶叫セル所ニシテ日本ノ国力ヨリセハ他国ニ先ンシテ通商ヲ開始シ漸次列国ヲ交際場裡ニ誘ヒ出ス

端ヲ作ルヲ以テ我国ノ利益トスル処ナリシカ英、伊、仏及支那近クハ米国ノ国策ニモ露国承認ノ意向見エタリ然ルニ我国ハ列国ノ跡ヲ追フノ観ナキニ非ラサルモ一年早ケレハ早キ丈国家ノ利益ナリト信スルカ故ニ両国ノ為メ祝福スル次第ナリ

日本ノ政治家ハ露国カ社会共産主義国家ナルカ故ニ疑ヒノ眼ヲ以テ承認ヲ躊躇セル為メ其ノ期間即チ五ケ年間日本ノ国力ノ発展ヲ鈍ラシメタリト云フヲ得ヘシ

日露通商ニ依ツテ更ニ支那トノ親善ハ緊密トナリ斯クシテ東洋平和ノ基礎ヲ安定スルコトヲ得ルカ故ニ一日モ早ク通商ヲ開始シ政治経済国防及人類ノ為メニ進マサル可カラス翻ツテ考フルニ米国及支那上海其他ニ於ケル排日問題ハ凡テ米国ノ術策ニ出テタルモノニシテ米国ヨリ侮蔑ヲ受クルハ米国ハ世界一ノ資本国ニシテ日本ハ世界ニ於ケル無産国ナルカ故ナルヲ以テ此ノ横暴モ忍ハサル可カラス日本カ五大強国ノ一トシテ実際対等ノ地位ニ列センカ為メニハ将来日米戦争ハ到底免レ難キ問題ニシテ又必要ナリト思惟ス政府モ露西亜及支那ノ資源ヲ利用シ一般国民亦此ノ心ヲ持ツテ国力ノ増進ヲ図リ戦争ノ準備ヲ獲得シ其他「ポーツマス」条約ノ正式承認露国領土内ニ於ケル日本人生命財産保護ノ権利認識等新協約締結ハ日本側ニ取リ成功ナリト思料ス然シナカラ共産主義者ノ政権ヲ把持スル限リ内外政策ニ於テ何等共通セルモノナキ両国間ニ真ノ和解成ルヘシト信スルヲ得ス北樺太ニ於ケル利権以外新条約ニ依リ両国通商上大ナル発展ヲ期待セハ失望ヲ齎スヘシ「ソビエット」政府ノ渇望シツツアルハ米国ノ同政府承認延テ資金ノ借入レニアルモ英国政府ノ承認後ニ於ケル露国ノ行動ヲ熟知セル米新国務卿ハ「ソビエット」政府ト正式関係ヲ結フノ意ナカルヘシ日本カ新条約ニ於テ赤化宣伝防止ニ関シ露国ノ完全ナル誓約ヲ得ントセシ努力ノ結果ヲ知ルハ興味アルコトナルカ従来本件ニ関スル「モスコー」政府ノ態度ヲ見ルニ取極調印ノ「インク」未タ乾カサル以前ニ破約シ依然トシテ世界赤化ヲ目的トシ機会アル毎ニ陰謀ヲ逞フセリ自国内ハ勿論隣国支那ニ於ケル赤化ヲ欲セサル日本カ毛頭履行ノ意志ナキ誓約ニ満足セリトセハ実ニ驚クヘシトテ別紙切抜（省略）ノ如ク論評致候

右御参考迄及報告候也

写在支公使

為スト同時ニ東洋平和ノ基礎ヲ確立セサル可カラス

日露国交回復ノ結果今回派遣セラルヘキ国際労働代表モ「シベリア」鉄道ヲ利用シ得テ時間其他頗ル有利トナレリ総同盟トシテハ交渉成立ヲ祝スル為メ示威運動其他何等カノ催シヲ為ス希望ナルモ当分成行如何ヲ見テ実行スル予定ナリ云々

右及申（通）報候也

三二七　一月二十四日　在天津吉田総領事ヨリ幣原外務大臣宛

日ソ条約ニ関スル新聞論調報告ノ件

公信第三七号　（二月五日接受）

大正十四年一月二十四日

在天津

総領事　吉田　茂（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

日露協約ニ関スル新聞論調報告ノ件

日露新協約ニ関シ当地 P. T. Times ハ日本ハ「ニコラエウスク」虐殺事件ニ対スル正式謝罪ヲ以テ露国承認ノ条件トセルカ如ク又北樺太ニ於テ宏大ナル石炭、石油ノ利権ヲ

三二八　一月二十四日　在ポートランド岡本領事館事務代理ヨリ幣原外務大臣宛

日ソ条約成立ニ関スル当地新聞論評報告ノ件

公第一二号　（二月二十四日接受）

大正十四年一月二十四日

在ポートランド

領事館事務代理
外務書記生　岡　本　久　吉（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

日露協約成立ニ関スル新聞論評報告ノ件

日露協約成立ニ関シ当市夕刊「オレゴン・ジャーナル」紙ハ本月二十三日ノ論説欄劈頭ニ「東ハ西ニ対抗セントスル乎」ト題シ大要左記ノ如キ論評ヲ加ヘ候

日露協約ハ輓近ニ於ケル最モ劇的ナ政策上ノ出来事ノ一ツテアル之ニ依ツテ日本ハ其最モ緊要ナル経済問題並社会問題テアルトコロノ軍備ニ適合スヘキ石炭及油ト人口過剰ノ緩和セラルヘキ場所トヲ得タ

「ソビエット」カ承認セラレテ日露両国ノ大民衆ハ親善関係ヲ保持スルニ至リ更ニ日本ノ勢力下ニアル現支那当

路者ハ亦多数ノ民衆ヲ擁シテ之ニ加ハリ斯クテ亜細亜同盟形成ノ姿ヲナス

此東洋連盟ハ太平洋ヲ隔テテ泰西非連盟ニ対峙シ若シ二者衝突ノ暁ニハ米国西海岸ハ其接触第一点テアル

刻下ノ日本政界ニ於テ親米派ハ凋落シ日露提携ノ主張者カ勢力ヲ得テ居ル消息通ハ米国議会カ移民法ニ依リ日本ニ侮辱ヲ与ヘタル為メ此現象ヲ生シタリト観察スル一方加藤首相ハ東洋文明ハ日支露三国ノ恒久的親善結合ニ依ツテ精華ヲ発スヘシト言ツテ居ル

日露協約カ亜細亜民族間ノ誤解ノ原因ヲ除去スルニ反シ泰西文明ハ調和ヲ欠キ米国ハ孤離ノ立場ニアリ欧州ハ相互反噬シテ新武器ノ発明ニ熱中シテ居ル状態テアル

形勢ノ推移斯ノ如クシテ米国ハ列強中露国ヲ承認セサル唯一ノ国トナッタ実ニ日露協約ヲ中心トスル世界ノ大勢カ米国ノ莫斯科政府承認ヲ緊切ナル問題トシテ眼前ニ突キ付ケタ

吾人ハ太平洋ノ将来ニ直面シテ欧州ト共助ナク白人種間協調ヲ欠クノ愚ヲ省察スヘキテアル云々

別紙新聞紙切抜相添ヘ此段報告申進候　敬具

（省略）

本信写送付先　在米大使

三二九　一月二十五日（着）　在米国吉田臨時代理大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

日ソ条約成立ニ関スル米国新聞情報続報ノ件

第三五号

二十四日新聞報

㈠ "Philadelphia Ledger" ハ再ヒ日露協定ニ関シ論説ヲ掲ケ協定中両国版図内ノ平和若クハ両国間乃至第三国トノ国交ヲ乱スノ行為ヲ取締ル可シトノ条項ヲ引用シ右ハ「プロパガンダ」禁止ニ関スルハ勿論ナルモ更ニ両国ノ支那ニ於ケル提携ノミナラス進テハ第三国ヲ相手トスル提携ヲ含ム協定ト認メ得ヘク之ヲ日露同盟ノ端緒ト見做スモ大過ナカルヘシ蓋シ英国トノ同盟ヲ失ヘル日本カ転シテ露国トノ同盟ヲ求ムルハ其伝統政策ニ合致スル所ナレハナリ此結果露国ハ今後有力ノ政治的勢力トシテ政情混沌タル支那方面ノ舞台ニ擡頭シ来リ日本ノ支援ヲ受ケツツ米国ノ勢力ト拮抗スル事トナルヘク換言セハ露国ハ華府条約ニ依リ形成セラレタル極東ノ勢力均衡ヲ破リ其平和ヲ脅スヘキ勢力トシテ出現セルモノナリ斯ノ如キハ米国ニトリ深甚ノ利害関係アル現実ノ事実ニシテ適当ノ対策ヲ要スト論シタリ費府「インクァイアラー」ハ支那ヲ exploit スル事ニ於テ共同ノ目的ヲ有ス張作霖ニ対スル関係若クハ支那統一ニ関シ呉佩孚ハ妨碍スル事ニ於テ両国ノ利害一致スル事亦疑ナシ帝国時代ノ露国ト異リ現露国政府ハ欧州諸国ニ対スルヨリモ日本ニ対シ多ク利害一致スルノ傾向アリ又日本ハ其ノ国情ニ顧ミ共産主義ノ宣伝ヲ恐ルル事英米仏等ヨリモ少ク而シテ露国承認ノ代価トシテ提供セラレタル天産資源ハ日本ノ垂涎措カサル所ノモノナルヲ以テ今回ノ協定ハ容易ニ成立セリ然レトモ之ニ倣ヒ米国モ速ニ露国ヲ承認セヨト言フハ当ヲ得サルモノニテ米国ハ寧ロ英仏ノ失敗ノ跡ニ鑑ミルヲ可トスト言ヒ市俄古「デーリー・ニュース」モ二十二日ノ紙上ニテ「ヒューズ」ノ対露政策ヲ是認スルノ趣旨ヲ述ヘ市俄古「デーリー・トリビューン」ハ二十二日ノ紙上ニテ露国ノ真ノ目的ハ無産者ノ支配ニ在リ故ニ其諸外国ト締結スル条約ハ彼等ニトリテハ敵国トノ条約ニシテ露国ハ最後迄条約ヲ遵守スルノ意思アルニ非ス日本ハ過去ニ於テ現ニ共産主義運動ニ悩マサレタリ今後露国ノ赤旗カ日本ニ翻ル事トナラハ亜細亜ノ大部分ハ過激派化セラルル事トナル可シ露国ハ之ニ見ル所アリテ僅カハカリノ石油ト石炭トヲ宛テ機会ヲ待タムトスル心底ヲ有スルニ過キスト述ヘタリ

二十三日大統領ハ新聞通信員トノ会見ニ於テ日露協定ニ付特ニ significance ヲ認メス米国従来ノ対露方針ニハ影響ナシト述ヘタル趣ニ、三ノ新聞ニ伝ヘラレタルカ "Baltimore Sun" ノ華府通信員（?）tssary ハ同紙上ニテ彼ノ意向ヲ reflect スルモノナルカノ如キ書振ニテ米国政府トシテハ日露協定ハ単ニ経済的ノモノニテ政治的事項ヲ含ムモノニ非ス謂ンヤ両国間ノ同盟ナリトハ認メ居ラスト言ヒ又露国ハ協定ノ結果東洋ニ於ケル外交上ノ地歩ヲ得タルハ事実ナルモ夫レ丈ケ以上何ヲ得タルヤハ疑問ナリ該協定ハ米国ニトリ左シテ関係ナキモノナリト華府ニテハ一般ニ認メ居レリト言ヒ尚従来日本政府ハ露国承認ヲ躊躇シ居タルニ今回愈成立スルニ至レルハ米国ノ排日移民法制定ノ結果日本政治家カ眼ヲ東洋方面ニ転スルニ至レルト露国カ此傾向ヲ巧ニ捕ヘタルニ基因スト述ヘ居レリ

三三〇　一月二十五日　在米国森田大使館付武官ヨリ金谷参謀次長宛（電報）

日ソ条約ノ政治的意義ヲ過大視セザル米国官

辺ノ意向報告ノ件

第四号　（一月二十七日外務省情報部接受）

日露交渉成立ノ米国ニ及ホス影響ニ関シ米国議会内ノ一部ニハ其結果ヲ憂慮シ該交渉ノ顚末ヲ国務省ヨリ議会ニ通報スヘキヲ要求スル者アリシモ官辺ニ於テハ日露協定ヲ以テ主トシテ経済問題ノ調節ト認メ何等深キ政治的意義ヲ含ムモノニ非ストナシ日本カ北樺太ニ於テ油田穿掘権ヲ獲得セルハ其国防上ニ於テ多大ノ利益ヲ獲タルハ勿論ナルモ之ヲ以テ直ニ莫斯科ヨリ宣伝シ来ルカ如ク両国間ノ同盟成立ト曲解ス可キニ非ストナシ又米国政府ハ仮令英仏日ノ列強相前後シテ露国現政府ヲ承認セルモ之カ為従来ノ否(非?)承認主義ヲ変更スルモノニ非スト言明シアリ

三三一　一月二十六日　中川大阪府知事ヨリ幣原外務大臣他宛

日ソ条約成立ノ海運界、貿易界等各方面ニ及ボス影響ニ関シ申報ノ件

外秘第一二〇四号　（一月三十日接受）

大正十四年一月二十六日

大阪府知事　中川　望

内務大臣　若槻　礼次郎殿
外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿
農商務大臣　高橋　是　清殿
逓信大臣　犬養　毅殿
指定庁府県長官殿

日露協定成立ノ各方面ニ及ホス反響

一、海運界

極東露国ニ入ル船舶ハ現在僅カニ大阪商船ノ年四十八航海北陸汽船ノ年二十航海朝鮮郵船ノ年三十航海ノ三社カアルカ（此ノ外ニモ沿海州方面ニ臨時材木積取船等アリ）是等ト雖モ入港税其ノ他ノ制限ニテ積荷尠少殆ト停船同様ニテ命令航路ナルカ故ニ多大ノ犠牲ヲ払ヒ乍ラモ就航シ居ルモノナルカ国交恢復ニヨリテ貿易関係ニ於テハ多クノ期待ハナシ得ナイカ沿海州方面ノ木材豆粕雑穀雑貨ノ積出シカ容易トナル見込ニテ現在ニテハ船腹不足ヲ生スヘク従而栗林商船ノ烏鉄連絡輸送ノ関係ヨリ浦潮行増配、郵船ノ浦潮航路復活、三井物産浦潮基点北米航路開始其ノ他社外船ノ配船計画ヲ伝ヘラレ加之東支鉄道ノ赤化、北満貨物東行政策ノ実

現、浦潮自由港開設等ニ依ル結果満州奥地ノ特産物カ従来大連経由ヲ主トシタルカ浦潮経由ヲ主トスルニ至ルヘク現在ヨリ浦潮行ノ船舶二倍以上ニ達スルト共ニ往航荷物カ増シ片荷現象カ緩和サルル見込ナリ

尚西比利亜鉄道ノ自由疎通ニヨツテ従来欧州方面旅客カ船上四十五日以上ヲ要スルニ比シ僅カニ、十四、五日ニテ到着シ得ル関係ト香港以東ノ往来船客ハ鉄道ニ吸収サルル虞アリ日本人船客ヲ主トスル郵船会社ノ欧州航路ノ打撃著シキモノアリ

而カモ各国船(ママ)客ノ船客争奪ハ船客ノ減少ト共ニ激甚ノ度ヲ加フルモノト観察セラル

二、貿易（一般）界

日露貿易ハ既ニ現在露国購買組合又ハ消費組合ノ手ニ依ツテ材木雑貨等相当ニ行ハレ居リ彼ノ新経済政策樹立以来購買消費組合活動ノ範囲カ一層拡大サレタリト謂フモ依然実質ハ貿易国営主義ヲ固守スル関係ヨリソヴィエット政府又ハ其ノ指定スル機関ト貿易スル事トナルカ此ノ前途如何ト云フニ代金決済方法ノ不備ト本邦品カ需要地ヲ従来西比利亜鉄道沿線ヲ主トシウラルヲ越エテ欧露ニマテ販路ヲ拓クニハ我国物価高カ禍シテ多大ノ期待ヲ有ツ能ハス

三、綿業界

現在極東露国ヘノ綿糸布乃至綿製品ノ供給ハ支那商人ノ手ニテ露人ノ購買力ノ許ス限リニ於テ取引サレ居レルカ目今需要ノ多キ天津向キ満州向キ綿業関係品カ再転シテ露領ニ入リ本邦品カ間接ニ供給サレツツアルモノナリ露国ハレーニンノ紡績国有断行後綿業ノ一大萎縮ヲ来シ現今稍々回復ノ途上ニ在リト雖モ尚一般ノ被服材料等綿業関係品ノ欠乏ニ困難ヲ来シ居ル状態ナル故本邦品ノ需要ノ起ル如ク伝ヘラルルモ取引上新ルーブルノ流通殆ト行ハレス物々交換ノ如キ現況ニテハ取引ノ円滑進而(行?)ハ極メテ至難ニシテ露国ノ購買力ノ貧弱疲弊代金決済ノ困難及露国経済制度ノ欠陥ヨリ来ル障碍ノ除去サレサル限リ日本重要産業ノ綿業界ノ好況ハ期待サレス

四、株式市場

日露交渉成立ヲ見越シテ昨年末来相場ノ上ニ漸次織込マレテ居タ為メ日露実業其ノ他関係ヲ有スル諸株ハ何

レモ買ヒ上ケラレタルカ協定成立ハ大体国交回復ニアル事トテ好感ヲ与ヘタルモ細目ノ協定ヲ見テ進退ヲ決セントスルモノ多ク殊ニ中旬貿易ニ於テ原料輸入期トハ云ヘ四千七百万円ト云フ大入超ニ脅カサレテ警戒人気旺ンニシテ手詰ヲ急キテ売物続出シ日露関係株中日露漁業等会社内容ニ欠陥アル諸株ハ反ツテ皮肉ナ急落ヲ示シ協定調印モ影響微弱ナリ

五、三品市場

只サヘ旧正月接近ニテ内外ノ実需不振ヲ歎キ居ル処ニ中旬貿易四千七百万円ノ大入超ニ人気著シク損シ日露交渉調印ト云フ好材料モ右ノ大入超ニ脅カサレ鈍状ナリシカ這ハ必スシモ反響ナシト即断シ能ハサル処ニシテ露国赤化後物資ノ欠乏ハ想像シ得ル処ニテ其ノ露国トノ通商カ成立シタルモノナル故今後西比利亜方面ニ対スル吾綿業貿易ノ地理的関係カラ有利ナ地位トナルヘシトノ期待カ内心ニ潜在シ居ル模様ナリ

六、大阪日露貿易協会ノ活動

1、対露貿易ノ前途ニ多大ノ期待ヲ持ツテ日露修交促進ニ就キ客年来運動シ来リタルカ交渉成立前副会長村山令蔵等ハ上京シ東京日露貿易協会ヲ中心ニ全国日露貿易業者ト当局ト協議シ協定ノ細目草案中ノ由ナルカ基本条約調印サレタル以上ハ速ニ細目協定会議ヲ開キ此ノ会議ニハ必ス当業者ノ代表ヲ出席セシムヘク東西策応シテ運動スル意気込ニテ大阪ハ前記村山令蔵ヲ代表ニ内定シタルヤニテ関税、貿易、資金決済、居住権、個人財産所有権ノ確保等ニツキ完全ナル決定ヲ遂ケントスルニアリト云フ

2、日露修交促進ノ運動ト共ニ対露取引決済期間カ六ケ月ノ長期ニアルタメ困難ヲ感スル当業者ノ要求ヨリ対露通商組合設立ノ企画ヲナシ居リタルカ今回ノ基本条約調印ト共ニ其ノ議熟シテ通商ニ先チ金融機関ノ設置ヲ急キ政府ヨリ低利資金ノ融通ヲ受ケ各一千円ノ出資ニテ資本金百万円見当ノ全国的組合ノ設立ニ運動シツツアリ

3、上京中ノ村山令蔵ノ帰阪ヲ待テ大阪市対露貿易業者ヲ中心ニ国交回復祝賀会ヲ催ス計画アリ

七、在留露国人ノ態度

管下在留露国人中ニハ帝政時代ニ相当重要ナル地位ニアリタルモノモアリ白色系ノ者ハ日本カソヴエット社会主義共和連合国トノ修交成立ハ軈テ夫レノ承認トモナリ日本政府ノ政策一変シテ在留露国人ニ対シ圧迫ヲ加ヘ退去ヲ命スルヤモ知レスト杞憂シ赤色政府ノ官憲日本ニ駐在スルニ至ラハ夫レ等ヨリモ亦迫害ヲ受クルヤモ知レスト不安ヲ感シ居ル向キ多ク避難民証明書ヲ如上ノ理由ニテ願出テタルモノアリ

八、労働組合

左傾分子ヲ幹部トスル在阪労働組合ハ何レモ這般ノ基本条約調印ヲ彼等カ宿案トシツツアル無産者ノ国家労農露国ノ承認ノ前提ナリト歓喜シ居ル模様ナリ

九、留紙幣

今次ノ基本条約成立ニヨリ露国トノ通商容易トナリ留紙幣復活ノ噂ヲナスモノアリ香具師等是レヲ口実ニ事情ヲ知ラサル一般人ヲ欺キロマノフ留、ケレンスキー留並ニ是等ノ偽造留紙幣ヲ販売スルモノアルヤニテ是等ハ全部不換紙幣ニテ而カモ其ノ大多数ハ偽造紙幣ニテ全然価値ナキモノナル由

右及申（通）報候也

三三二　一月二十七日　在独国本多大使ヨリ幣原外務大臣宛

日ソ条約成立ニ関スルドイツ新聞論調報告ノ件

本第一七号　（三月七日接受）

大正十四年一月二十七日

在独

特命全権大使　本多　熊太郎（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

日露協定成立ト独逸新聞論調報告ノ件

今回成立ノ日露協約ニ関シ当国各地新聞中論評ヲ為シタルモノ今日迄一二ニ過キス又其論旨未タ熟セサルモノ有之候得共不取敢要点摘訳御参考迄ニ報告申進候　敬具

露国—支那—日本

（「ドイツエ・アルゲマイネ」紙一月二十四日評論）

現ニ日本ハ欧州ニ於テ「ベルサイユ」条約ヨリ生スル各種委員会ニ参加シ居ルモ之レ大国トシテノ虚栄心ニ出テタル過渡的現象ニ過キスシテ日本ノ舞台ハ依然東亜ニアリ……然レ共日露協定成立ニヨリテ直ニ日露支三国ノ政治的経済

的提携ノ実現近キニ在リトナスハ大早計ニシテ今日ニテハ一ツノ学究的議論ニ過キス蓋シ満蒙ニハ三国ノ関係ヲ試練スヘキ幾多ノ難問題存スレハナリ此等三国ノ接近ハ東亜「モンロー」主義ニ向フヘキ独立ナル「アジア」政策ノ萌芽ヲ示シ各般ノ問題ニ付「アメリカ」乃至「ヨーロッパ」政策ヨリ出ツル抗議ヲ排除スルニ至ルヘシ

東亜「モンロー」主義モ亦容易ナル業ニアラス何トナレハ米国ノ資本ナクシテ亜細亜ノ開発ハ断シテ想像ノ余地ナケレハナリ但シ米国及連合国ト云フ現的世界ノ二大勢力ニ対シ全然別個ノ新勢力ハ亜細亜ノ三国連合ニヨリテ発生スヘシ此勢力ハモトヨリ未知数ナルモ少クトモ今後ノ世界政策上ニハ常ニ考量セラレサルヘカラサル所ナリ又亜細亜国民ノ連合カ有スル広汎ナル領域、其経済的利益等ニ関スル問題ノ為メニ彼等ノ事業心及膨張慾ハ大部分之ニ忙殺セラルヘキヲ以テ其連合外ニ立ツ国民殊ニ欧州連盟ニ対スル彼等ノ関係ハ明ニ平和的傾向ヲ呈スルニ至ル可ク此意味ニ於テ亜細亜連合ハ世界平和ノ為メ歓迎スヘキモノナリ云々

外交評論ノ一節

（「フォシッセ」紙一月二十三日）

日露協定成立ニ対シ支那政府ノ為シタル声明ハ北京ニ於ケル「カラハン」ノ活動ニ障害ヲ与フルモノニアラス反ツテ日露支三国ノ大亜細亜連合ヲ目的トスル事業カ未然ニ裏切ラルヘキヲ防ク巧ミナル遣口ナリ又日露協定成立ニヨリテ露国ノ極東ニ於ケル外交網ハ完備シタルモノナルモ露国ノ東方ニ於ケル活動ハ西方ニ於ケル活動ヲ終熄セシムルモノニアラス否反ツテ西方政策実現ノ牽制手段トシテ用ヒラルヘシ云々

三三三　一月二十八日（着）　在英国林大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

日ソ条約ノ影響ヲ観察セル「オブザーバー」紙論説報告ノ件

第四二号

往電第二七号ニ関シ二十五日ノ「オブザーバー」ハ日露協定ニ関シ此重要ナル協定カ極東ニ於ケル国際関係ニ一新機（軸）ヲ画スルモノニシテ支那ノ将来ハ予断ヲ許ササルモ其日露両国トノ関係ノ発展ニ依リテハ極東ニ於ケル三国ノ提携ハ必スシモ不可能事ニ非スシテ現ニ其進行中ニアルモノト見ルヲ得ヘシト為シ米国ニハ対露及対日政策ニ付「ヒューズ」一派ノ親日派ト「ボラー」一派ノ親露派ノ両派存シタルモ対露政策ニ対シ日本カ先鞭ヲ着ケタル事ハ「ヒューズ」ノ引退ト相待テ「ボラー」派ノ親露政策ノ擡頭ヲ促スニ至ル可シト観察シ居レルカ右ト同様ノ論ハ近来屢々当地新聞ニ表ハレ当国一部人士ノ間ニハ日、支、露三国接近ヲ以テ究極ノ大勢ナリヤニ疑ヲ懐キ居ルノ事実アルモノト観測セラル

三三四　一月二十八日（着）　在米国吉田臨時代理大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

ソ連ノ将来及ビ日ソ接近ヲ軽視スルヲ批判セル論説報告ノ件

第四二号

二十六日新聞報 Journal of Commerce 社説欄ニテ大統領ハ日露協定ニ就キ特ニ significance ヲ認メスト言ヒタルカ露国ノ将来及日露接近ノ事実ヲ軽視スルハ甚タシキ短見ナリ何トナレハ米国ハ移民問題ニテ日本ヲ不必要ニ怒ラセ露国承認問題ニテ同シク露国ノ感情ヲ害シツツアリ斯ク米国ニ対シ共同ノ怨悪ヲ有スル日露両国間ニ有効ナル（rapprochement）成立スヘキハ可能ニシテ如斯事態カ支那及露国方面ニ於ケル米国ノ利害ニ関スル所大ナルハ勿論ニシテ米国当局ノ等閑視スルヲ許ササル所ナラスヤト論ス

三三五　一月二十八日　在リガ上田書記官ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

日ソ条約ハ欧米ニ対抗スル日ソ中三国同盟トノ見解ヲメグル論説紹介ノ件

第六号　（一月二十九日接受）

労農政府側カ日露協約ヲ将来欧米ニ対抗スル日露支三国同盟ノ基礎タルヘシトシテ之ニ世界的意義ヲ有セシムルヲ以テ当方面ノ事情ニ通セサルモノハ本協約ヲ危険視スルモ事情通ハ危険視スルヲ早計ナリトス「ナロードナヤムイスリ」日ク協約ハ世界的意義ヲ有シ亜細亜人積極的政策ノ第一歩トシテ欧米諸国ニ対スル大打撃物タルヲ以テ諸国ハ平然タルヲ得サルナリ今ヤ移民問題ニ関スル日本ノ対米抗議ハ北京協約ノ形トナリテ現ハレ日本ハ本協約ニ依リ先ツ自己ノ位地ヲ強固ニシ日露支三国同盟ヲ締結シテ欧米ニ対抗スルニ至ルヘシ露国ノ共産主義政治的理由及日本ノ国民的傾向ハ欧米ニ対抗シテ亜細亜ヲ復興スヘシトノ点ニ一致ス云々「セゴードニヤ」日ク協約ノ内容未タ詳ナラサルモ日

本政府カ国内輿論反対ノ為樺太ヨリ撤兵シ之ニ対シ石油石炭ノ利権ヲ獲得セシコトハ事実ナルヘキモ其他ハ臆測ナリ日本外交官ハ用心深ク且ツ現労農政府ノ位置ニ疑ヲ懐クモノナルヲ以テ日本カ同政府側ニ付キ又欧米ニ対抗スル日露支三国同盟成立スヘシトノコトハ疑問ニシテ殊ニ日支両国間ニ蟠ル不和ハ斯ル同盟ヲ成立セシムルヲ得サルヘシ日露支三国同盟ヲ云々スルモノハ幾億ノ亜細亜民族ヲ駆リテ欧州ヲ脅カサントスル「ボルセビキ」新聞記者ニ過キス云々在英、仏、独、波蘭大公使ニ転電セリ

三三六　一月二十八日　中川大阪府知事ヨリ幣原外務大臣他宛

日ソ基本条約締結ノ経済界ニ及ボス影響ニ関シ在阪知名実業家ノ感想通報ノ件

高親第六七一号　（一月三十日接受）

大正十四年一月二十八日

大阪府知事　中川　望

内務大臣殿
大蔵大臣殿
外務大臣殿
農商務大臣殿
各庁府県長官殿

日露基本条約締結カ経済界ニ及ホス影響ニ関スル感想ノ件

標記ノ件ニ関シ在阪知名実業家ノ感想ヲ調査候処大体左記ノ如ク現下不況沈滞セル経済界ニ一大活路ヲ与ヘタルモノナリト将来ニ嘱望シ政府当局並ニ外交当局者ノ努力ニ対シ感謝シ居レリ

記

一、多年ノ懸案タリシ本問題解決セラレタルハ洵ニ当局ノ努力ノ賜ナリト冒頭シ基本条約カ愈締結ヲ見タル以上彼我政情ノ相異ハ別問題トシ両国間ニ於ケル国交ハ復旧シ経済関係モ好転スルハ勿論ナルカ露国ハ革命以来内乱ニ亜クニ饑饉ニ苦メラレ而モ久敷国交孤立ノ状態ニアリテ疲弊其極ニ達シ居ルヲ以テ労農政府ハ将来国力ノ増進恢復ヲ図ルカ為国民ヲ或程度ニ度外視シ輸入貿易ヲ防遏シ輸出貿易ヲ旺盛ニスヘキ国策ヲ樹立スルナラン尚且現在露国ニ於ケル経済組織ノ欠陥即チ貨幣ノ不統一為替取組ノ至難ト一般ニ購買力衰微セルニ因リ当初ハ物々交換ニ拠ルノ外ナカルヘシ而已ナラス数年来封鎖状態ニアリタル露国ノ近情ハ不可解ト云フヘキヲ以テ今直ニ我経済界ニ好況ヲ齎シ大貿易カ行ハルル如ク期待スルハ早計ナリ

一、今ヤ水産農業森林鉱山等無尽蔵ト称セラルル宝庫ハ吾吾国民ノ目前ニ展開セラレ通商ノ恢復ヲ見タリト雖モ不日細目協定セラルルヲ竢ツテ慎重講究ヲ為シ然ル後将来ノ大収獲ヲ画策スヘキナリ

一、露国ニ於ケル森林ハ世界ノ三分ノ一ト称セラレ殆ト無尽蔵ナル同地産木材ハ目下多量輸入セラレツツアル米材ヲ圧倒シ吾木材界ニ好調ヲ齎スハ必然ナリ殊ニ農業ハ「ニコライスク」ヲ中心トシテ肥沃ノ地ヲ有シ現ニ同地付近ニ於テ鮮人カ最モ幼稚ナル方法ニ依リ開拓シタルニ約二十一万石ノ収穫ヲ見ルニ至リタリトテ試植セシ同地産米ヲ当地ニ見本トシテ送付越シタルカ朝鮮米以上ノ良質ヲ有セリ豆満江ノ流約三百万町歩ノ如キ之ヲ水田ニ耕作セハ約六千万石ノ米穀ヲ収穫ナシ得ヘキ可能性ヲ有ス且又年産二億円ヲ超ユト称セラルル露領北海ノ水産事業ハ将来吾々ノ重要ノ財源ノ一タルヘシ其他石油石炭ノ採掘ニ貿易ニ交通ニ幾多ノ財宝ハ枚挙ニ遑アラサルモ此開拓企業ニ付テハ莫大ノ資本ヲ要スルヤ論ナキヲ以テ或程度ノ国家経営ニ竢ツ外ナシ然ル上ハ行キ詰レル移民、失業、食糧ノ諸問題ハ期セスシテ解決スルヲ得ヘシ云々

意見聴取者　三五名

貿易商一〇、紡績業六、鉄工業五、造船業二、銀行業三、海運業二、取引所二、電気業二、商業会議所一、雑業二、

右申（通）報候也

三三七　一月二十八日　富永長崎県知事ヨリ幣原外務大臣他宛

日ソ交渉成立ニ対スル在留外国人ノ感想報告ノ件

外高秘第六二八号　（一月三十一日接受）

大正十四年一月二十八日

長崎県知事　富永　鴻

内務大臣　若槻礼次郎殿
外務大臣男爵　幣原喜重郎殿
陸軍大臣　宇垣一成殿
海軍大臣　財部　彪殿

農商務大臣　高橋　是清殿
指　定　庁　府　県　長官殿

日露交渉成立ニ対スル在留外国人ノ感想ニ関スル件

長崎市南山手町十五番地居住
露国人陸軍中将
グリゴリー、セミョーノフ

日露国交ノ恢復ヲ国際的ニ見ルトキ之ニ依リテ最モ脅威ヲ感スルハ米国ナルヘシ日米目下ノ国際関係ヨリシテ日本カ露国ト善隣関係ヲ結ヒテ軍事的ニ後顧ノ憂ナク且ツ進ンテ今回ノ協約ニ依リ樺太ニ海軍ノ為メニ石油、石炭等ノ大貯蔵所ヲ置クコトナラハ恰モ英国カ新嘉坡ニ海軍根拠地ヲ置クコトニ依リテ日本カ甚シキ脅威ヲ感スルニ等シカルヘク又対支関係ヨリ見ルニ露支、日露ノ国交恢復ノ今後ニ於ケル米国トシテ頗ル不利益ノ地位ニ立ツニ至ルヘシ之ヲ日露貿易ノ上ヨリ見ルニ日本人カ今日期待スルカ如キ好果ハナカルヘシ何トナレハ露国今日ノ状態ヨリ見テ農工各方面トモ頗ル不振ニシテ大ナル物資ノ輸入ヲ見ルコト能ハサルヘク亦輸出ハ何品ニヨラス欠乏シ居ル際ナルヲ以テ夥シキ輸出ヲ見ルヘク想像セラレサルニアラサルモ国民ノ購買力微弱ナルト露国今日ノ社会組織及為替等ノ関係ヨリシテ多クヲ期待スヘカラス過激主義ノ宣伝禁止ノ取極メハ或ハ実行セラルルナルヘシ労農政府ニ於テハ其主義上ヨリ全世界ヲ赤化スルニアラサレハ最後ノ理想ニ達セストナシ従来各国ニ対シ盛ニ宣伝ヲ試ミツツアルニ不拘何等実績ノ見ルヘキモノナキニ鑑ミ世界ニ誇ルニ足ルヘキ歴史ト鞏固ナル国体ヲ有スル日本ニ対シテハ到底其ノ目的ヲ達スル見込ナシト認メ居レル模様ナルヲ以テ此機会ニ於テ日本ニ対スル宣伝ハ之ヲ停止スルヤモ計ラレス北京ニ於ケル今回ノ会議中「カラハン」ヨリ芳沢公使ニ対シ予ノ引渡方ヲ要求シタリトノ事ニテ公使カ之ニ対シ如何ナル回答ヲ与ヘラレタルヤヲ知ラサルモ日本トシテハ恐ラク之カ承諾ヲ為ササルヘシト思料ス由来国際慣例ニヨリ国事犯人ノ他国ニ避難セル者ノ引渡要求ニ対シテハ之ニ応セサルノミナラス寧ロ之ヲ庇護シ居レリ亦予トシテモ日本ニ対シテハ能フ限リノ力ヲ尽シ来レルヲ以テ当路ニ於テハ之ヲ諒トセラレ居ルモノト思料スルノミナラス目下ノ予トシテハ何等軍事又ハ政事的行動ヲ執リ居ラサルヲ以テ日本政府カ予ヲ引渡シ又ハ退去命令ヲ発スル等ノ挙ニ出テラルルコトナキヲ信スルモ若シ微妙ナル国際関係上退去命令ニ接スル如キコトアラハ不得已次第ナルヲ以テ支那方面ニナリト渡航シ安棲ノ地ヲ求ムヘシ之ト同一理論ニヨリ貴国政府カ莫斯科ニ居住シ居レル佐野、近藤等ノ引渡ヲ要求セラルルモ労農政府ハ恐ラク之ニ応セサルヘシ

現在ノ労農政府モ到底永続スルコトナカルヘシ現ニ「ザバイカル」以東ノ人民ハ労農政治ヲ厭ヒ政府怨嗟ノ声高ク革命ヲ希望シ居レルカ此ノ情勢ニテ推移セハ西比利亜ノ革命モ茲二三年内ニハ実現スルニアラサルカ斯ノ如キ情勢ナルヲ以テ同地方ニ於ケル代表者ハ従来屢々予ニ対シテ蹶起ヲ慫慂シ来リタルモ其時機ニアラストシテ之ニ応セサリシカ将来時機到来国民ノ輿望ヲ負フ事ヲ得ハ革命ノ首領トシテ出馬スルヲ拒マサルヘシ云々

三三八　一月三十一日　朝鮮総督府警務局ヨリ幣原外務大臣他宛

日ソ基本条約調印ニ対スル京城在住ノ内外人ノ感想ニ関シ通報ノ件

高警第三一四号　（二月四日接受）

大正十四年一月三十一日

朝鮮総督府警務局

日露基本条約調印ニ対スル感想ノ件

本月廿一日北京ニ於テ行ハレタル日露基本条約調印ニ対スル京城在住ノ内・鮮・外人ノ感想ヲ綜合セハ左ノ如シ

記

一、内地人

多年懸案タリシ日露ノ国交カ今回ノ基本条約ニ依リ恢復スルノ運トナリタルハ両国民ノ等シク慶賀スル所ナリ殊ニ朝鮮ニ於ケル経済問題ハ露国トノ通商ニ至大ノ関係ヲ有シ今後自由ニ来往通商スルコトヲ得ルニ至ラハ彼ノ富源ヲ開発シ経済的ニ疲弊セル露国ヲ救済スルト共ニ数年来沈衰セル我財界ニモ活気ヲ呈シ彼我利スル所共ニ尠カラサルヘシ又政治的ニモ露領沿海州ニ移住スル多数ノ鮮人ニ対スル保護取締モ或ル程度迄ハ行ハルヘク此ノ方面ヨリ見ルモ亦便利ナリ唯憂フヘキハ赤化ノ宣伝ナルカ之ニ関シテハ条約中ニ明文モアリ露国トシテハ条約調印前ニ比シ寧ロ今後ハ宣伝ヲ慎シムニ至ルヘシ

二、朝鮮人

日露交渉開始以来幾度カ停頓シテ行悩メル両国ノ国交カ今回ノ調印ニ依リ恢復ヲ見ルニ至レルハ吾人ノ歓喜スル所ナルカ之ニ依リ在露数十万ノ吾カ朝鮮人ニ如何ナル影響ヲ与フルカハ頗ル重大問題ナルモ条約ノ内容発表ニ至ラサレハ彼是批判スルコト能ハス然レトモ新聞紙ニ発表セラレタル処ニ依レハ日本側ノ要求ハ其ノ八九分ハ成功シタルモノノ如シ之レ露国カ革命以来孤立シ全世界ヲ挙ケテ赤化セムトシタルモ遂ニ成ラス益経済的ニ窘迫シ国内ニ於テモ漸次変則的ニ資本主義ヲ認メタル等ノ点ヨリ考察スルニ露国モ歴史ノ証明スルカ如ク事実上資本主義ノ排斥カ到底実現スヘカラサルヲ自覚シタル結果従来ノ主義主張ヲ曲ケ自国民ノ幸福ヲ図ル為大ニ譲歩シテ国体ヲ異ニスル日本ト条約ヲ結フニ至リタルナラム然ルニ独リ我朝鮮民族ニハ吾等ノ幸福ヲ増進スル資本的権威モナク民族トシテノ団結力モ日ト共ニ衰ヘツツアリ恐ラク現状ヨリ脱スルノ機会ハ来ラサルヘシ

三、露国人

京城駐在露国総領事館ニ於テハ本月二十一日東京露国大使館ヨリ日露条約調印ノ電報ニ接シ「ヘフトレル」総領事代理ハ同日館内居住ノ露国人ト共ニ感慨無量ノ裡ニ館上ニ翻レル旧露国々旗ヲ引下シタリ而シテ「ヘフトレル」総領事代理ハ領事館ノ建物保管方ヲ本府ニ申出テ且私有財産ノ処分ニ着手シ引上ケ準備ヲ為シツツアルカ残務整理ノ上ハ一先ツ東京大使館ニ至リ夫ヨリ妻ノ本国ナル瑞西ニ赴クヘシト尚其ノ他一般露国人ハ我等白色露国人カ異国ニ漂浪シテ塗炭ノ苦ヲ嘗メツツアル所以ハ何レノ時カ日本ノ援助ニ依リ復辟ノ時機到来スヘキコトヲ唯一ノ希望トシテ今日迄過シ居タリ然ルニ今回日本ト赤色露国トノ間ニ条約ノ調印成リタルヲ以テ此ノ一縷ノ望モ今ハ全ク水泡ニ帰シタリト悲観スルト共ニ今後赤色露国公館開設セラルルニ至ラハ如何ナル圧迫ヲ受クルニ至ルヤモ知レスト憂慮シ居ル中ニモ日本領土内ニ居住スル間ハ生命丈ハ安全ナルヘシト引続キ居住ヲ希望シ居ル者アリ

発送先　内務大臣、外務大臣、内閣拓殖局長
指定庁府県長官　各道知事

三三九　二月五日　在ハルビン下井内務事務官代理ヨリ外務省欧米局長他宛

日ソ交渉妥結ト英米ノ態度ニ関スル情報報告ノ件

哈秘第四五号　（二月十二日接受）

大正十四年二月五日

在哈爾賓
内務事務官代理　下井内務属

日露交渉調印ト英米ノ態度ニ関スル件

日露交渉調印後在米国「ロスター」通信ヨリ秘密ニ露国ニ入リタル通信ニヨレハ

「アングロサクソン」カ世界ノ民族支配ヲ夢見テノ外政上ニ於ケル提携ハ倍々鞏固トナリ英国ハ前ノ労働党「マクドナルド」内閣ノ失脚シテ保守党ノ内閣トナリテヨリ英国ノ対露政策ハ激変シテ国内ニテハ却テ保守党ノ信望衰ヘタルトコロヘ今回ノ日露交渉調印ニヨリ倍々其不利トナリタルカ為メ英国ハ米国ニ款ヲ通シ米国ノ排日等ヲ援助シ一方露国ニ対シテハ英米ノ立場ヲ無視シテ日本ト交渉成立ヲ為シタルコトニ不満ノ意ヲ通告シ来ルヘク

米国ハ「サガレン」ニ於ケル「シンクレア」会社ノ利権ニ就テ抗議シ（既ニ抗議シ来レリト言フ）将来西伯利方面ニ活動スヘク力ヲ注ク為メ多数ノ人ヲ派スル計画アリノミナラス英米ハ両国ニテ世界ノ海上ノ独占権ヲ得ネハ将来英米カ屈辱ヲ見ルヘシトテ海上ニ於ケル動作ヲ共同援助シ殊ニ太平洋ニ於ケル海上権ニ就テハ日露ノ進出ヲ許ササル計画ヲ徹底スルニ至ルヘシト云フ

既報ノ如ク露国ハ日本ノ承認ニヨリ地歩ハ定マリタルモノトシ対米問題ニ関シテハ強固ナル主張ヲナス目的ニテ旧債ノ支払及革命ニヨリ没収シタル私有財産ノ損害賠償ヲ為ササルノミナラス無条件ニテ承認セサレハ交渉ニ応セサル腹ナレハ「シンクレア」会社ノ利権ニ対スル抗議ナトハ何等ノ問題ニモセサルヘシ

三四〇　二月六日　清野神奈川県知事ヨリ幣原外務大臣他宛

日ソ交渉成立ニ対スル本邦知名人士ノ感想並ビニ反響ニツキ申報ノ件

外秘収第四六二号　（二月十二日接受）

大正十四年二月六日

神奈川県知事　清野　長太郎

内務大臣　若槻礼次郎殿

外務大臣　幣原喜重郎殿
陸軍大臣　宇垣　一成殿
海軍大臣　財部　彪殿
大蔵大臣　浜口　雄幸殿
指定各庁府県長官殿
北京、上海、哈爾賓各内務事務官殿

日露交渉成立ニ対スル在留外国人其他ノ感想
並ニ反響ニ関スル件
第四報　日本人ノ感想

首題ニ関シ日本人ノ感想内偵致シ候処大要別紙ノ通リニ有之候条此段及申（通）報候也

枢密顧問官子爵　金子堅太郎

日露修交協定ニ関シテハ未タ枢密院ニ御諮詢アラセラレサルヲ以テ詳細ヲ知ル術ナキモ本締約カ新聞紙上ニアルカ如ク尼港事件ニ関シ唯単ニ「尼港事件ハ真ニ遺憾」トノミ一片ノ声明ニ過キサルトセハ如何ニシテ彼ノ過激派ノ毒牙ニ罹リタル吾陛下ノ赤子タル七百名ノ霊ヲ慰ムル事ヲ得ルヤ如斯キハ吾国民思想ニ大ナル悪化ヲ招キ且将来国交上ニ及ホス影響ハ大ナルヲ以テ余ノ直ニ首肯スル能ハサル所ナリ

又赤化宣伝ニ就テモ露国ハ国自身トシテハ公然過激思想ヲ宣伝セサルニセヨ個人又ハ団体トシテ宣伝スル場合ニヨク之ヲ禁止シ得ルヤ否ヤ現ニ吾国ニ於テモ不良分子中ニハ露国ヨリ多額ノ金円ヲ収受シ宣伝運動ニ従事スルモノアルヲ以テ之カ取締ハ最モ困難トスル所ナリ此ノ点ヨリ見ルモ該締約ハ相当論議ノ余地ヲ存スル所ナリ

元仏国大使　栗野子爵

サヴェット社会主義共和国カ今回ノ条約締結ニ関シ我国ニ対シ譲歩ニ譲歩シタル原因ヲ想像スルニ露国ハ目下英米仏何レノ国家ニモ認メラレサルヲ以テ第一ニ日本ト条約ヲ結ヒ以テ各国ニ国家的地位ヲ認メシムル素因トナシ漸次欧米ニ向ツテ交渉ノ歩ヲ進メント企テタルナルヘシ又目下英米仏ハ殆ント露国ヲ認メス時ニ圧迫的態度アルニ関シ露国ハ本条約ヲ締結シ将来之ヲ土台トシテ支那ニ対シ以テ三国同盟ヲ形成セン心算アリトナスモノアルモ元来国是ヲ異ニシ日本カ最モ嫌忌スル共産主義国ト同盟スルノ意向アリト云フカ如キハ無稽モ亦甚シト云フヘシトハ云ヘ日露両国ノミノ立場ニ於テ本条約ハ大体ニ於テ喜フヘキ現象ニシテ貿易事業者及鉱業者等ニハ甚大ナル好影響ヲ与フヘシ然シ乍ラ第三「インターナショナル」ハ益々旺ンニ共産社会主義ヲ各国ニ宣伝シ多額ノ費用ヲ投シ居リ為メニ欧米各国ハ露国ニ対シ非常ナル嫌悪ノ情ヲ懐抱シ居リ而モ此宣伝ニ関シ露国政府トシテハ条約違反ノ責ニ任スルノ意無キカ故ニ結局個人トシテ日本国法ニ依リ処罰スルニ止マルナラム此ノ虚ニ乗シテ第三「インターナショナル」ハ其使命達成ノ為相当ノ活躍ヲ為スヘシ

生糸貿易商　原　富太郎

惟フニ我国ハ対外政策ノ行詰リト内ハ経済的疲弊ニ依リ国民生活ノ脅威ヲ受ケツツアル現状ニ鑑ミ支那露国ノ如キ天賦ノ富源ニ開拓ヲ需ムルノ国策ハ最モ緊急事ニ属ス従テ日露協約成立ニ依リテ齎ラス利益ハ実ニ莫大ナルモノアラム協定案中最モ考慮スヘキハ思想宣伝ニ関スル条項ナリ労農政府ハ協定ニ於テ宣伝禁止ヲ約スト雖モ「ソヴェット」政府出現ノ由来政府其モノノ特性及主義等ニ於テ共産主義ヲ世界ニ宣伝スル目的ナルハ自明ノ理ナルヲ以テ政府ハ此点ニ充分ノ考慮ヲ要スヘシ次ニ「ベッサラビア」問題ナルカ曩ニ英仏ハ「ベッサラビア」ト批准交換ヲ為セリ今回我国ニ於テ之ヲ如何処理スヘキヤ本件ハ延イテ英仏トノ国際関係ニ影響スル処少ナカラス政府ハ対外伸展策上百年ノ大計ヲ樹ツルニ当リ慎重考究ノ上場合ニ依リテハ多少ノ犠牲ヲ辞セス猛進スル必要アリ

日露貿易商　綿野告二

余ハ日露実業株式会社ニ関係ヲ有スルニヨリ常ニ極東露領ト貿易ニ関シテ全力ヲ傾注シタルカ革命後ト雖モ全然露国トノ取引断絶シタルニアラス

ハルビンヲ中心トシテ西比利亜浦潮方面トノ取引ハ依然継続シツツアルモ露国政府ノ貿易国営実施以来「シベリヤ」地方ニ於ケル市郡村ニ設置セラレタル約二百八十五箇所ノ「ゴストコム（貿易委員会）」ヲ経由セサレハ取引ノ確実ヲ期スル能ハサルヲ以テ頗ル繁雑ナル手続ヲ要スル次第ナルカ何レ細目協定ノ暁ハ便宜ナル改正ヲ見ルニ至ルヘシト思考ス今回ノ協商締結ニ依リテ露領ヨリ獲得スル日本ノ利権ハ甚大ナルカ別シテ将来本邦ノ主要輸出品タル砂糖、綿布、小麦、紙等ヲ同方面ニ輸出シ露国ヨリハ亜麻種子、毛皮類ヲ輸入スルノ貿易事業ハ非常ノ活況ヲ呈スルニ至ラムモ当初ハ本邦ヨリ生活必需品ヲ携行シテ西比利亜地方ノ物資欠乏ヲ救済スルト共ニ物々交換ニ依リテ毛皮類ノ輸入ヲ

為サハ一挙両得ト云ヒ得ヘキモ当横浜トシテハ今ヤ震災ニ依ル個人経済ノ極度ノ疲弊ト復興途上ニアリテ他ヲ顧ミルノ暇ナク現在直ニ大ナル期待ヲ為シ得ヘカラサルモ日露貿易同業者ハ将来ニ於テ恰好ナル時期及方法ヲ考究シ対露貿易ニ往時ノ隆盛ニ向ハシムヘク計画中ナリ猶国交断絶前同業者ノ露領ニ残シタル私有財産大約三千三百万円ニ達シタルカ之ニ就キ条約文ニ格別ノ規定ヲ認メサルヲ遺憾トスルモノナルモ帝国政府ニ於テ大ナル利権ヲ獲得セル関係上何分ノ考慮ヲ加ヘラルル事ト思料ス

日露貿易商　平野武雄

日露協商成立ハ各種ノ意味ニ於テ相当本邦側ニ有利ト認メラルルカ又我経済的活躍ノ舞台ヲ拡大シタルモノト云ヒ得ヘシ両国ノ修交永久ニ親善ナルニ於テハ我国ノ経済勢力カ西比利亜地方ニ伸張セラルヘキハ言ヲ俟タサル所ナルカ余ハ此ノ経済的征服戦ニ於テヨリ多クノ露国土民ヲ有利ニ使役スヘキ事ヲ主張スルモノナリ遺憾乍ラ多クノ日本人ハ未タ十分露国人ヲ理解セサルカ真ノ露国土民ハ非常ニ淳朴ニシテ農工ノ労務者トシテ適性ヲ有ス彼等ノ使役宜敷ヲ得ルハ西比利亜ニ於ケル日本ノ経済的地歩ハ益々確固タルヲ得ヘシ

三菱商事株式会社支店長　内田顧一

両国締約ノ条文ニ於テ主義宣伝禁止ヲ約シタリトハ云ヘ遂ニ共産思想ノ流入ハ免ルヘカラス唯国民性ノ異ナル所ヲ支持シテ専ラ文教宗教ノ力ニ依リ思想ノ悪化ヲ防止スヘシ但シ本協定カ経済的軍事的ニ相当意義アルヤ疑ハサル所ナルモ両国物貨ノ貿易ハ両国経済的組織ノ相違ニ依リ及露国財政窮乏ノ為西比利亜地方トノ金融不通ナル為メ近々ニシテ其発達ヲ期スルハ望ムヘカラサルカ故ニ少クモ数年間ハ格別期待ニ値スルモノアラサルヘシ

三四一　二月九日　在浦潮渡辺総領事代理ヨリ幣原外務大臣宛

日ソ条約ノ調印ガソ連邦側ニ及ボセル反響ニ関シ報告ノ件

第一六号（暗）　（二月十七日接受）

大正十四年二月九日

在浦潮斯徳

総領事代理　領事　渡辺　理恵

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

日露条約調印ト露側ニ及ホシタル反響ニ関スル件

曩ニ北京ニ於テ調印サレタル日露間修好基本条約カ当国乃至当地方ニ及ホシタル反響ニ関シテハ客月下旬電報及暗第九号ヲ以テ及報告置候処爾来本件影響ノ波及如何ニ留意シ来リタルニ予想ノ通露側ハ依然日本側ノ勝利トシテ伝ヘラルル如キ所謂オ祭リ騒キ的ノ歓喜振リヲ為サス飽迄冷静自大的ニ持シ之ヲ以テ対内党略乃至対外国際的宣伝ニ利用スル位ニ止メ居ルカ而モ彼ノ全露的経済復興ニ重大期待ヲ為シタル英露条約ノ失敗ト対仏交渉又今後相当ノ難関ヲ控フル折柄帝国トノ修好ハ彼ニ取リ政治的ニ国際地位ノ鞏固乃至極東ノ安固ヲ贏得且経済的ニ鮮クモ西伯利極東方面ノ復興ニ利スル処大ナルヲ以テ内心之ヲ喜ヘルハ疑ヒナク就中極東当局側ハ労農政策タル利権譲与ト外資誘致ニ依ル領内富源ノ開発産業振興策ニ腐心中故此ノ機ニ於テ彼等ノ眺向キトスル日本ノ健実ナル投資ヲ仰カントシ態度ヲ急変シテ曩ニハ長々懸案ト為シ来リタル我カ林業経営ニ関シ成田代表ニ対シ長期契約実現方ヲ督促シ来リ（往電第七号）又労農本義トシテハ排斥スヘキ筈ナル当地朝鮮銀行支店ニ対シテモ近来伊藤支店長カ時々財務当局ニ与フル財政経済政策ニ関スル勧告意見等ヲ感謝傾聴スルニ至リ同店営業ニ対スル多額ノ税金乃至対新法規違反科料等大減免ヲ為シ頻リニ同支店ノ存続ト財政共助希望ヲ表シ来リ此程日露実業会社当地森支店長カ予テノ計画中ノ経済利権諸案ニ関シ「ハ」府ニ極東革命委員会幹部ヲ歴訪シタルニ何レモ従来ト異リタル態度ニテ熱誠事務的ニ歓迎シ我カ健実ナル投資熱望ノ意ヲ表シ利権問題ノ如キ具体的案ヲ提出セハ極力之カ成立ニ努力スヘキ誠意ヲ示シ且同店諸税金モ抗議ニ依リ最初ノ指定額ノ約八分ノ一ニ減低スル等一般ノ空気頗ル良好ナリシ趣ニテ近ク当地ニ在リテモ彼ノ郵便交換復旧ニ依ル利便ハ素ヨリ我カ船舶ニ対スル噸税其他ニモ愈々条約国同様ニ取扱フ筈ノ由ニテ我在留民ノ居住往来取扱振リ又緩和サレタル外本官ノ日常当局側ニ為ス在留同胞ノ権利利益保護ニ関スル交渉モ従来ニ弥増シ好意的ニ取扱フ様ニ成リ何トナク円滑ノ度ヲ増シタル感アリ之等ハ孰レモ交渉成立後一般ニ認メラルル著シキ善化現象ニシテ之ヲ要スルニ露側ハ予テノ主義国民性乃至現状上今次ノ修好ニ対シ外形上カイキ（歓喜カ）振リヲ発揮セス実質的事務的ニ着々有効的ニ相互利益ノ増進ニ努メ居ルモノト認メラル依テ本官ハ微力ナカラ此ノ機ヲ

利用シ在留有識者ト協力シテ一般同胞ノ自重トユジ(ママ)露側ノ善化的傾向助長ニ努力中ニ有之候帝国カ進ンテ通商航海漁業其他ノ利権問題ニ関シ露国ト此上充分ノ協議ヲ遂ケラレ露国ノ真相ト新事態ニ際シ我カ健実ナル資本家技術家乃至真ノ労役者ヲ当方面ニ誘致サレ（本件ニ関シテハ別ニ卑見具陳スヘシ）露領無限ノ富源開発各種企業ノ発展ヲ指導奨励サルルハ独リ我方経済社会人口食糧問題等ノ解決上利益アルノミナラス同時ニ露国ノ為ニモ有利ト認メラルル処ニシテ所謂彼我共栄共存ノ実ヲ挙ケ得ル処ニシテ這ハ単ニ経済的ノミナラス又私事的(政?)ニモ東帝国百年ノ大計上必須ノ事ト被存候右及報告候　敬具

編註　本文書ハ公信ヲ暗号ニ組ンデ郵送シ外務省デ解訳シタモノト思ワレル

三四二　二月十三日(着)　富永長崎県知事ヨリ　幣原外務大臣他宛

日ソ交渉成立ニ対スル邦人ノ感想ニ関スル件

外高秘第六二八号

長崎県知事　富永　鴻

内務大臣　若槻礼次郎殿
外務大臣男爵　幣原喜重郎殿
陸軍大臣　宇垣　一成殿
海軍大臣　財部　彪殿
農商務大臣　高橋　是清殿
指定庁府県長官殿

日露交渉成立ニ対スル感想ニ関スル件

セミョーノフ将軍関係

陸軍少佐　黒木　親慶

我カ政府モ愈々労農露国ヲ承認シテ基本協約ノ成立ヲ見タル上ハ遠カラス批准ノ交換トナリ国交恢復ノ暁先ツ何人モ第一ニ懸念スルハ如何ニシテ赤化ノ宣伝ヲ防止スルカニアリ労農政府ハ第三インターナショナルハ労農政府トハ全ク別個ノ独立機関ナリト声明セルモノノ如ク一方日本ヨリハ既ニ労働総同盟ノ代表トシテ松岡駒吉入露シ労農政府ヨリ利権ノ譲渡ヲ受クヘク奔走中ナリトノ事ナルカ此ノ利権譲渡問題ハ労農政府側ヨリ言ハシムレハ単ニ日本労働者ニ対スル好意的救済ニアリト然ルニ日本労働者側カ莫大ナル利権ヲ獲得シタル暁此利権即チ活動資金ヲ如何ニ活用スルカハ想像ニ難カラサル処ナリ

日本ニ於ケル各種ノ労働同盟ノ団結鞏固トナラハ労働者ノ一大勢力団体ノ実現スル可能性アリ然シテ労働団体ノ勢力其ノモノハ既ニ赤化左傾ノ表徴ト言ヒ得ヘク茲ニ於テ直接労農政府若クハ第三インターナショナル協会カ露国人ヲシテ宣伝ノ表面ニ立タシメサルモ極メテ巧妙ナル手段ヲ以テ各外国人支那人朝鮮人及ヒ日本労働団体等ニ対シ好餌ヲ以テ誘惑シ宣伝ノ挙ニ出テンカ我政府カ労農政府ニ対シ条約違反ヲ以テ詰問スルトモ効ナカルヘク之ニ対シ帝国カ報復的態度ニ出テ露骨ニ赤化宣伝ノ露国人ニ対シ警戒厳ナラムカ必スヤ面白カラサル感情ノ疎隔ヲ招来シ国交上憂慮スヘキ事案ヲ惹起スル虞ナシトセス

尚ホ樺太ノ油田問題ノ如キモ或ル一部分ノ区画丈ノ利権ヲ日本ニ割譲シタルニ過キス其他ノ部分ハ露国自カラ事業ノ経営ニ当ルモ又ハ之ヲ莫大ノ資金ヲ有スル米国其他外国ノ手ニ委スルモ自由ナレハ或時機ニ於テハ日本ニ対スル牽制策トシテ米国等ニ隣接油田ノ権利ヲ譲渡スルノ挙ニ出テムモ斗ラレス斯クテハ種々難問題ヲ続出スルノ虞ナキニアラス

労農政府モ政権ヲ掌握セシ当初ハ主ニ猶太人及猶太系露国人カ政府ノ要職ニ在リタルモ目下大部分猶太系及猶太人ハ漸次放逐又ハ殺害セラレ郡部ノ如キ殆ト其影ヲ見サルニ至レリト斯クシテ労農露国モ純露国人ノ露国タラシムヘク全力ヲ傾到シ居ルモノノ如ク而シテ所謂共和主義ノ変形タル帝国主義的国家ノ実現ヲ見ルニ至ルヘキ傾向アリ如斯帝国主義ノ実現ハ軈テ再ヒ侵略主義タル帝国主義国家ノ実現ヲ見ルニ到ルヘク茲ニ於テ猶太系ノ純共産党及第三インターナショナルニ対シ早晩衝突ヲ来スハ免レサル処ニシテ露国ハ再ヒ混乱ノ巷ト化シ茲ニ到ツテ之ヲ統一スヘク衆望ヲ負ヘル一偉大ナル人格者ヲ要スヘシ目下露国人民ノ各階級ヲ通シテ労農政府ノ政策ノ失敗ヲ自覚スルニ至リ殊ニ軍人階級其他政府枢要ノ人物モ異口同音ニ共産主義ハ一ノ宗教テアリ亦一ノ理想ニ過キスシテ決シテ現在ノ社会ニ於テ讃美スヘキモノニアラストサレト目下ノ軍人階級ハ実力本位ノ平民階級ヨリ昇進シタル者ナレハ帝政復興ハ過激派以上ニ嫌忌スルモノノ如ク其ノ然ル理由ハ露国帝政ハ軍人将校ハ皆貴族ヲ以テ之ニ任スルノ制ナレハ現在ノ平民階級ヨリ昇進シタル軍人ハ再ヒ其軍職ヲ剝奪サルヘシトノ懸念ヲ抱ケ

ルカ為ナリ云々

長崎市本石灰町一番地
洋品商　永田栄重

自分ハ明治二六年頃浦潮ニ渡航爾来約三十年間商業ニ従事シ客年九月帰国シタルモノナルカ今回ノ日露基本条約ノ調印ニ依リ直チニ国交恢復シタルモノト思惟シ一攫千金ヲ夢ミ彼地ニ渡航シテ商業其他ノ事業ヲ経営シ亦露国商人及ヒ義勇艦隊等モ陸続入港スル如ク予測セル者アルモソハ思ハサルノ甚シキモノニシテ刻下ノ如ク露貨ノ暴落甚シク国家ノ対外信用地ニ墜チ加之凡テノ営業権ヲ政府ニ於テ掌握シ国家経営トシ之ヲ購買組合ニ下渡シ購買組合ヲシテ小売ヲ為サシメ個人ノ営業ヲ極度ニ圧迫シ之ニ重税ヲ課シ営業不能ニ陥ラシメツツアリ尚ホ浦潮地方ニハ多数ノ労働者アルカ之等ハ純筋肉労働者ニアラスシテ労働局ニ登録シ単ニ口先ヤ筆先ノ労働者ニシテ之等ヲ雇傭セントセハ労働局ハ雇主ニ対シ被雇傭労働者ノ保険ヲ命シテ保険金ヲ徴収シ以テ労働者ヲ保護スル状態ナルヲ以テ労働者ノ雇傭モ亦困難ナリ労農政府ハ目下僅カ二、三億円ノ兌換金貨ヲ有スルノミニシテ全ク外国ヨリノ物資ヲ仰カス保護貿易主義即チ自給

自定ノ方針ニテ日本ヨリノ輸入品ニ対シテハ僅カシヤツ一枚ニ対シテモ一円八十七銭ノ重税ヲ課スル有様ナレハ現下ノ状態ニテハ相互間特定ノ関税協定ヲ為スニアラサレハ到底国交恢復シタリトハ云ヘ個人ノ商業経営等ハ不可能ニテ畢竟有産階級者ニ対スル搾取主義（持ツテ居ル丈取リ上ケル）ヲ現実ニ実行シツツアリテ近キ将来ニ愈々商業経済戦ニ入ラハ労農政府ハ総テ国家経営主義ノ方針ナレハ労農政府ハ阪神地方ノ製造業者ヨリ直接必要物資ノ供給ヲ受クルニ至ルヘケレハ日本ノ小資本営業者ハ大ニ考慮セサル可ラス而シ林業及漁業等ハポーツマス条約ヲ認メアルヲ以テ将来有望ナラム

前示ノ如ク露国現今ノ状態ニテハ幾多ノ入露希望者モ労農政府カ商業ノ自由ト課税ノ緩和トヲ図ラサル限リ総テノ協定事項モ実質上ニ於テハ余リ好果ヲ収メ得サルヘク従ツテ入露希望者ハ軽挙失敗ヲ招クコトナキ様細心ナル注意ヲ要ス亦労農政府ハ今回ノ条約成立ニ対シ従来種々ノ名義ノ下ニ没収シタル個人ノ家屋其他ノ財産ヲ返還スルニ至ルヘキモ之ヲ返還セラレ尚一層ノ迷惑ヲ感スル珍現象ヲ来スニ至ルヘシ何トナレハ之ニ莫大ナル所得税ヲ課セラルル虞アル

ト一面家賃ノ如キ国定法ニ依レハ一坪僅カ拾五銭ノ規定ニテ到底収支相償フヘクモアラス先ツ税制ノ改革ヲ為サシメ関税ノ緩和ヲ図ルコトカ第一ノ急務ナリ云々

右及申（通）報候也

三四三　二月十八日　久保関東庁警務局長ヨリ木村亜細亜局長他宛

日ソ条約調印ニ対スル在郷軍人、銀行界等各界ノ反響並ビニ諸外国人ノ感想ニ関スル件

関機高発第五三四〇号　（二月二十四日接受）

大正十四年二月十八日

関東庁警務局長

亜細亜局長　殿
拓殖局長　殿
警保局長　殿
指定庁府県長官　殿
関東軍参謀長　殿
関東憲兵隊長　殿
在京関東長官　殿

日露協約調印ニ対スル各界ノ感想

日露協約調印後ニ於ケル管内各界ノ感想ヲ総合スルニ概ネ左ノ如シ

一、内地人ノ感想

(イ)在郷陸海軍将校

日露ノ協約成立セルハ両国民ハ勿論東洋平和ノ見地ヨリ衷心祝福スル所ナルカ該交渉カ紆余曲折久シキ歳月ヲ要セシ理由ハ軈チ赤化宣伝ノ防止、油田、無電ノ三問題ノ渋滞ニ因リタルモノナラン我カ政府カ這次交渉ノ暗礁トシテ最モ緊張ヲ要シタルハ将来ニ於ケル赤化宣伝ニ依リテ思想悪化ヲ憂ヘ特ニ宣伝禁止ノ事項ヲ加ヘタルニ見ルモ想像ニ難カラサル所ナルカ実際問題トシテ将来之カ防止ハ蓋シ容易ナラサルヘシ又「サガレン」油田ハ軍事上極メテ重要ナル事項ニシテ老獪ナル「カラハン」ハ夙ニ之ヲ看破シ之ヲ楯ニ日本側ノ極端ナル譲歩ヲ迫リ当初ニ於ケル七〇％ノ主張ハ遂ニ大譲歩ヲ余儀ナクサレ五〇％ヲ以テ解決セルカ新聞其ノ他ノ論調ハ概ネ日本外交ノ成功ト賞揚シ居ルカ如キモ之レ皮相ノ見解ニシテ寧ロ露国外交ノ成功ニ外ナラサルナリ而シテ将来我国ニ有望ナルハ石油、漁業、礦山、

林業等ナルモ之等ノ主ナル事業ハ政府ノ直営カ或ハ三井、三菱、鈴木等ノ大資本家ノ投資ニ依ルヘク中、小資本階級ニ稗益スルハ極メテ寥々タルヘシ此ノ点ニ関シテハ大イニ研究ヲ要スル問題ナルカ孰レニスルモ相当移民ノ進出ヲ見ルニ至ルヘキハ欣フヘキ事象ニシテ殊ニ数年来衰頽セル漁業ハ今後著シキ活況ヲ呈スルニ至ルヘシ

従来裏日本ニ面セル各貿易港ハ浦潮トノ通商杜絶シ居リタルモ将来沿海州、西伯利亜地方ヨリスル物資ノ貿易ハ漸次殷賑ニ趨フヘキモ之ト同時ニ動乱後北満及一部西伯利亜地方ノ物資カ主トシテ大連港ニ集中シ居リタルモ今後浦潮ノ輸出盛況ヲ極ムルニ随ヒ満鉄本線及大連港ノ将来ニ関シテハ最モ重大ナル影響ヲ及ホスニ至ルヘキハ識者ノ大イニ注目ヲ要スル点ナリ云々

(ロ)露国通邦人

日露協約成立ニ依リ多年封鎖サレタル両国民ノ精神的鎖鑰ヲ解カレ「ソヴェート」政府カ統治上得タル収獲ハ蓋シ鮮少ナラサルヘキモ今後彼我両国民間ニ何等カノ反影ヲ齎ラスモノト観測サル而シテ将来露国発展ノ先鋒ハ所謂一攫千金ノ空拳党或ハ娘子軍ナルヘキカ之等ハ国交ノ恢復ト帝国ノ威信ニ関スル所少ナカラス彼等ノ進出ニ対シテハ当路ニ於テ相当ノ取締ヲ必要トスルノミナラス真摯ナル事業家ノ進出ヲ期セサルヘカラス然レトモ三井、三菱、大倉、鈴木其他大資本家ト雖従来ノ如キ群雄割拠的ノ態度ハ改メ之ヲ打テ一丸トシ一致団結彼ニ当ラサレハ将来ノ成功ハ期シ難シ又思想上ニ関シ各界共相当憂慮セラレ居ルカ如キモ言語、人情、風俗ヲ異ニセル我国ニ対シ直接悪思想ノ滲潤スルモノトハ考ヘラレス要ハ取締方法ノ如何ニ在リ「ソヴェート」政府ノ宣伝ハ極メテ偉大ナル勢力ヲ有スルカ如ク即断スル者アルモ謬見ナリ全世界共産党員カ其ノ数纔カニ六千万人ヲ超エストイフニ見ルモ其ノ実勢力ノ如何ニ恐ルルニ足ラサルカヲ証スルニ足ラン云々

二、外国人ノ感想

(イ)英国人

個人相互ノ間ニ於テモ其ノ不和ナルハ甚タ不愉快ニシテ敵ヲ作ラムヨリハ親友ヲ得度キハ何人モ之ヲ望ムカ如ク国家相互間ニ於テモ亦同様ナリ這次日露協定ノ成立ヲ見両国々交ノ恢復スルハ寔ニ欣ハシキコトナリ日露ハ地理的関係ニ於テ恰カモ独墺ト同様ニシテ通商貿易等極メテ密接ナル関係ヲ有ス我英国ハ曾テ仏国大革命ニ際シ率先シテ新国家ヲ承認シテ通商ヲ開始シタル歴史アリ労農露国ニ対シテモ各国ニ先ンシテ之ヲ承認シタルカ其ノ真意ハ通商開始ニアリタルコト勿論ニシテ今次日本ノ承認ト雖モ恐ラク通商上ノ見地ニ基キタルニ外ナラスト考フ日本有力者中或ハ共産主義宣伝等ノ問題ニ関シ尠ナカラス憂慮セルカ如ク聞クモ決シテ憂フルニ足ラサル問題ナリト思考ス日本国民ハ到底外来思想ヲ以テ動カスヘカラサル一種ノ魂ヲ有ス米国ト雖モ恐ラク半歳ヲ出テスシテ露国ヲ承認スルニ至ラン云々

(ロ)白軍系露国人

日本政府ハ革命ニ依テ生セル労農政府ト過去数年ニ亘リ会議ヲ継続セルカ其ノ都度労農側ノ悪辣ナル懸引外交ト無暴ナル提案トニ依リ数回ノ決裂ヲ見タルカ今回北京ニ於ケル会議ニ於テ遂ニ調印ヲ見ルニ至レリ吾人旧帝政党ハ終始現「ソヴェート」政府共産党機関ノ破壊ト旧露国ノ復活ニ腐心シ来レルモ今次日露協定ノ調印ハ吾党ニ対シテハ致命的ノ脅威ニシテ死刑ノ宣告ニ優ル打撃ナリ惟フニ彼等「ソヴェート」政府ナルモノハ過去数百年皇統連綿タル帝政露西亜ヲ破壊シ世界ニ其ノ覇ヲ成セル国家ヲ一朝ニシテ没落セシメタル悪魔ノ結晶ナリ此ノ点ニ於テ両者ノ相容レサルコトハ今更言フノ要ナシ然ルニ日本ハ如何ニ地理的、経済的ニ密接ナル関係ヲ有スト雖既ニ其ノ露国ヲ承認スルニ至リタルコトハ恂ニ光輝アル日本将来ノ為メ惜シムヘキコトナリト信ス即チ其ノ結果ハ必ス患ヲ招キ予期ノ如キ日本国民ノ福利ヲ増進スルカ如キコトナカルヘシ翻テ日本ニ於ケル思想ノ激変ヲ見ヨ水平社ノ擡頭、労働組合ノ団結或ハ社会主義者ノ結束等日本古来ノ美風ト良俗ヲ破潰シツツアルニアラスヤ而モ社会主義者ノ擡頭ハ露国革命後ニ於テ著シク進展セルハ彼等主義者ノ活動ノ実況ニ徴シ明カナリ彼等ノ擡頭ハ軈テ革命ヲ招来スルノ道程ナリ労農露国ノ建設ハ単ニ露領内ニ止マラス其ノ主義ハ国際的ニ全世界ヲ風靡セサレハ已マス彼等ノ魔手カ向後那辺ニ及フヘキカ此ノ意味ニ於テ日本

ノ将来ニ由々敷大事ヲ惹起スルニアラサルカヲ憂慮セサルヲ得サルト共ニ将来吾党ノ運動ヲ思フノ時暗然タラサルヲ得ス吾党真ノ憂国者ハ光輝アル日本ヲ背景ニ露国ノ復興ニ終始努力シツツアリシカ事茲ニ至リテハ万策尽キタリ日本カ今回ノ措置ハ其ノ政策上ヨリ出テタルニセヨ其ノ処決ノ冒険的ナルニ喫驚セリ吾人ハ日露関係ノ将来ニ対シ決シテ楽観スヘキニアラスト思惟スルモノナリ云々

(ハ)左傾露国人

愈々日露交渉モ彼我ノ互譲ト誠意ニ依リ茲ニ調印ヲ見ルニ至リタルハ両国民ノ為大イニ祝福スヘキコトニシテ過去数年間両国間ニ築カレタル障碍ヲ一掃シ両国ノ友誼的関係ヲ恢復シ相提携シテ先ツ経済的親善ニ依リ極東ノ富源ヲ開拓スルニ至ラハ彼我利スル所蓋シ鮮少ナラサルヘシ露国ハ最早政治上ニ於テハ其ノ根底極メテ鞏固ナルモ経済上ニ関シテハ未タ疲弊ノ域ヲ脱セサルモ日本資本家ノ投資ヲ見ルニ至ラハ露国経済ノ将来ハ大ナル変調ヲ来シ円満ナル進展ヲ来スニ至ルヘシト信ス云々

三、支那人

日露修交恢復ト共ニ将来日、支、露三国ノ親交ヲ図ルハ極メテ急務ナリ支那ハ現ニ日本ヲ背景トスル段内閣アリ之ニ依リ将来英米カ支那ニ有シタル利権ハ種々ノ意味ニ於テ日本ノ脅威ヲ受クルコトトナリ為メニ英米両国ノ対支政策ハ劇変ヲ来スヘク或ハ露支ヲ誘惑シテ其ノ提携ヲ破壊セントスヘシ随テ日支露三国ノ完全ナル提携ハ東洋平和ノ根本的問題ニシテ英米ノ嫉妬的野心ハ充分ニ排斥スルコトヲ得ヘシト信ス曩ニ協定調印ト共ニ赤化宣伝禁止問題等議セラレツツアルカ之等ノ如キモ日支両国カ倶ニ防止ニ努メサレハ其ノ効果ナク此ノ意味ニ於テ日本ノ対支外交ハ更ニ重大ナル時機ニ到達シ居レリ又日露国交恢復ト共ニ西伯利亜鉄道ノ開放トナリ欧亜ノ連絡ハ其ノ距離ニ於テ著シク短縮セラレ南満鉄道並唯一ノ輸出港タル大連ニ於ケル地理的天恵ハ確カニ旧時ニ数倍スル好況ヲ齎ラスニ至ルヘク将来満蒙開発ノ為共ニ進マムコトヲ熱望スルモノナリ云々

四、銀行界ノ反響

日露協定ハ既ニ調印ヲ見タルモ之カ批准ト細目協定カ完全ニ成立スル迄ニハ尚ホ相当ノ日子ヲ要スヘク俄カニ貿易其他ノ取引カ開始セラルルニアラス而シテ露国ノ経済状態ハ如何将来両国カ如何ナル形式ニ依テ連絡セラルルカハ極メテ興味アル問題ナリ現在露国ニハ「ルーブル」其ノ価値ヲ失ヒ「チェルウォーネツ」カ国貨トシテ通用シ之等ノ為替取引等ノ研究ヲ要スルハ勿論貿易其他事業資金ノ保証関係ニ対スル露国政府ノ誠意若ハ方針ノ確保カ商取引ニ及ホス最大要素ナレハ仮令交渉成立スルモ事実上商取引ノ開始セラルルハ今ヨリ想像シ難シ銀行側トシテハ交渉成立ノ暁ニ於テ最モ好影響ヲ受クルハ交通機関ノ恢復ナリ郵便電信並ニ鉄道ニ依リテ欧州ト直接商取引ノ円滑ヲ期スルニ至ルハ近キ将来ナルヘシ而シテ旧露国ノ借款問題或ハ我国ノ利権問題ノ如キハ細目協定ニ俟ツヘキモノニテ今ヨリ兎角ノ評ヲ為ス能ハサルモ何レニスルモ世界ノ宝庫ヲ以テ誇ル西伯利亜ノ開発ハ経済上各方面ニ変化ヲ来スヘク亦露国カ私有財産ト個人企業ヲ認ムルニ至ラムカ穀類工業原料品ノ輸出ト茶、雑貨、砂糖其ノ他加工品ノ輸入ハ漸次盛況ヲ見ルヘク殊ニ沿海州ニ於ケル森林、漁業等ニ我資本ノ投セラルルニ至ラハ自然邦人ノ移民増加シ国内的経済問題ノ如キモ幾分緩和サルルナルヘシ現在銀行トシテハ僅カニ朝鮮銀行カ浦潮ニ余喘ヲ保チ居ルニ過キサルモ今後貿易開始ノ暁ニ於テハ正金銀行ノ如キモ現在閉鎖中ノ浦潮支店ヲ再開スルト同時ニ曾テ計画中ナリシ莫斯科支店ノ設置実現スヘシ要スルニ今回ノ協定成立ハ沈衰セル日本ノ経済界ニ一抹ノ生気ヲ注キタルモノト云フヲ得ヘシ云々

三四四　二月十九日(着)　在米国吉田臨時代理大使ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

日ソ条約ニ関連スル密約説等ニ対スル米国側ノ反応ニ関シ報告ノ件

第七〇号

貴電合第二四号ニ関シ

日露協定ニ関連スル密約説等ハ欧州ヨリ新聞電報ニテ当地ニモ伝ヘラレ居ルモ今日ノ処真面目ニ之ヲ取扱フモノ無ク当方面ニテハ大体累次ノ往電ニテ御承知ノ通日本今後ノ産業ニ及ホスヘキ該協定ノ影響又ハ極東勢力均衡問題等ニ関

シ鮮カラス注意ヲ払ヒ居ルハ勿論ナルモ日本獲得利権ノ莫大ナル事極東政局ニ及ホス影響甚大ナル事等ヲ大袈裟ニ吹聴スル莫斯科及欧州ヨリノ報道ノ如キスラ為ニスル宣伝殊ニ露国承認問題ニ関シ米国輿論ヲ動カサントスル宣伝ナリト目シ多クノ新聞ハ寧ロ之ニ警戒ヲ加ヘツツアル状況ナリ独逸ニ転電シ英、仏ヘ転電セシメ伊、白ニ郵送セシム

三四五　二月二十日　平塚兵庫県知事ヨリ　幣原外務大臣他宛

日ソ条約締結ノ海運、貿易、金融界等各方面ニ及ボス影響ニ関シ査報ノ件

兵発秘第一五四号　（二月二十四日接受）

大正十四年二月二十日

兵庫県知事　平塚　広義（印）

内務大臣　若槻　礼次郎殿
外務大臣　幣原　喜重郎殿
農商務大臣　高橋　是　清殿
大蔵大臣　浜口　雄　幸殿
指定庁府県長官殿

日露基本協約締結ノ反響ニ関スル件

一面日支ヨリ満蒙方面行貨物ノ吸集ヲ企画セルハ素ヨリ浦潮ノ繁栄ト東支烏鉄間ノ運賃増収ヲ図ラントスル政策ナルヘク満州輸出穀類ニ対スル東支烏鉄間連絡運賃低減ニ干スル協定成立セル趣ナルカ故ニ同港経由貨物ノ集散高激増ニ依ル船腹ノ需要増加ヲ予測セルモノ多ク又漁業用船舶需要ヨリ大北及日露両漁業会社トノ間ニ三十一万五千噸ノ傭船契約ヲ見タルカ日露協約締結ニ依リ一層漁業界ノ活況ト同時ニ沿海州ノ木材輸入増加ノ見込アルヲ以テ近海航路船腹ノ需要ハ更ニ益々喚起サル可シトテ海運界ハ本年下半期ノ好転気配ヲ期待シツツアリ

目下三菱船舶部神戸及長崎両造船所ニ於テ新造中ノ八千噸級五隻ハ今回ノ日露条約締結ニ依リ浦潮ヲ中心トスル北米航路ヲ開拓シ往航ハ満州特産物ノ豆粕油大豆木材雑貨類復航ハ機械鉄小麦ヲ輸送ス可ク頻リニ計画中ナルカ竣工ヲ見ル迄或ハ傭船就航スルニ非スヤト一般ニ観測シ居レル外大阪商船会社ハ敦賀浦潮間ノ定期航路ニ冷蔵装置ノ嘉義丸一隻ヲ配船シ居タルカ今後貨客ノ激増ヲ見越シ増配計画中ノ模様アリ只欧露ト西伯利亜ヲ連絡セルシベリヤ鉄道ノ復旧ハ労農政府現在ノ執政ニ於テ前途遼遠ノ感アルモ将来日露

首題之件ニ関シ管内各方面ニ於ケル現実及将来ノ影響計画意向等ヲ内査スルニ左記ノ通リニ有之候条右及申（通）報候也

記

一、海運界ニ対スル影響

海運界ハ今後日露両国民相互ノ往復貨物輸送数量ノ漸増ニ対シ着々準備計画中ノ模様ナルカ現在ニ於テハ左シタル影響ヲ見サルモ只今次ノ条約締結ニヨリ薩哈嗹派遣軍撤兵ニ要ス可キ御用船ハ少クモ五千噸級七八隻ニ及フモノトノ予想ニ刺激サレ早クモ四五月初航ノ流氷ニ対スル設備ヲ打算シ神戸海運市場ハ同方面ノ傭船料昂騰気配ニ転シ噸当リ八円乃至十円見当ヲ気構フニ至レリ

露国政府ハ従来船舶不足ノ関係ヨリ勢本邦船ノ需要一層激増スルモノト一般ニ期待セルカ労農政府カ極東露領統一以来政治組織ノ改廃ニ次テ経済方面ニ着々其ノ政策ヲ実現シツツアリテ昨秋（九月）北満方面ノ輸出穀類及西伯利亜満州ヘノ輸出貨物ニ対シ栗林商船会社ト海陸連絡輸送ノ契約ヲ結ヒ目下十五六隻ノ配船ヲ見ツツアルカ今回露国ハ更ニ浦潮港ニ自由港区域ヲ設定シテ北満貨物ノ南行ヲ防止スル親善ノ度ヲ加ヘ交通貿易殷盛ニ趨クニ伴ヒ海運界好況時代ノ到来ヲ期シテ待ツヘキモノアラント一般ニ前途洋々ノ感ヲ懐ケルカ如シ

二、貿易界ニ対スル影響

今次ノ日露修交ハ久シク停頓シタル対露貿易業者ニ大ナル衝動ヲ与ヘ斯業者ハ将来西伯利亜ノ天地ニ活躍スルノ日ヲ夢想シテ活気ヲ呈セル観アルモ未タ管下ニ著シキ現実ノ影響ヲ認メサルカ今後ノ細目協定ニ依リテ具体的方針ヲ樹立スル模様ニシテ神戸対露貿易業者ハ屡々会合協議ヲ重ネツツアルカ対露貿易ノ根本問題トシテ露国ノ産業ヲ政府ノ直営主義ニ改ムルコト及為替金融機関急設ノ必要ヲ唱ヘ且ツ対露貿易ハ露国ノ現状ヨリ個人取引至難ニ付キ貿易組合計画ニ干シテ凝議シ政府ノ輸出組合法案ニ賛意ヲ表シツツアリ今後ノ輸出品ニ就テハ大乱後独逸ノ疲弊ニ顧ミ西伯利亜地方ニ於ケル医薬及医療具ノ需要ヲ見越シ同業者ハ蹶起運動中ノ模様アリ

大正十三年度浦潮対神戸港貿易額ハ輸入ニ於テ二百九十二万五千円輸出ハ僅ニ七万一千円ニシテ大正八年以来対露貿易ハ殆ト杜絶ノ状態ナルモ国交断絶前ニ於ケル

輸入品
- 欧露領亜細亜
  - 白金、石絨、大豆、獣骨、獣毛、木材、亜麻子、豆粕、植物繊維類
- 欧露
  - 麦芽、獣毛、ホップ、硫安、サントニーネ

輸出品
- 欧露領亜細亜
  - 精米、昆布、寒天、精糖、玉葱、果実類、茸、機械用調帯、魚油、木蠟油脂、硫黄、工業薬品、燐寸、塗料、染料、文房具、真綿、麻糸、絹布、メリヤス類、漁網、洋紙、鋼、真鍮製品、羅紗、ランプ、諸機械及部分品、人造肥類
- 欧露
  - 生糸、工業薬品、医療機、安質母尼、鋼、雑貨類

等ニシテ之等貿易ハ今後漸次復活スルニ至ランモ極度ニ疲弊セル露国ノ経済的現状ハ物資ノ欠乏ニ苦シメリト雖モ購買力ノ擡頭シ来ルハ尚相当ノ歳月ヲ要スヘシ一般当業者ハ彼地ニ於ケル天産物資ヲ開発シテ之カ換金ヲ待タサル可ラサル事情存スルカ故ニ先ツ内地大資本団ノ投資ト知識アル労働者ノ供給ニヨリテ之カ開発促進ヲ翹望シ今後ノ施設観望ノ状況ニアリ

三、生産事業ニ及ホス影響

従来管下燐寸業者ハ軸木原木トシテ白楊ヲ樺太沿海州等ノ露領ニ仰キ不足分ハ米松ヲ代用セルカ米松ハ白楊ニ比シ質脆弱ニシテ太軸物ノ外使用不可能ナル関係ヨリ常ニ軸木原木ハ市価昂騰シ戦後不況ナル斯業ノ脅威ナリシカ日露修交ニヨリテ将来無尽蔵ト称セラル露領ヨリノ輸入ノ円満ナラシムルニ至ラハ斯業界ニ益スル所大ナル可シ従来軸木材料ノ取引ハ露国林務省ノ主管ニシテ直下ニ林務庁アリ同庁ヨリ民間ノ甲乙ニ命シ伐採セシムルカ如キ殆ント当局ノ独占事業ナルカ故ニ其契約価額ハ横暴ヲ極メ尚課税ノ如キ百石ニ対シ百円ヲ課セラレ又彼ノ労働者保護税ノ名目ノ下ニ労働者ニ軽微ノ負傷ヲ生セシ際ニ於テハ終身扶助料ヲ事業主ニ請求スルカ如キ幾多不利ノ事故各地ニ頻発セルカ為ニ管下宮下木材会社ノ如キハ大連支店ノ伐採直営ヲ昨夏中止シタル状況ナルカ今後条約ノ保護ニヨリ幾多ノ利便ヲ得ヘシトテ細目協定ヲ観望シツツアルモ之等木材業者ハ調節後ト雖モ「シベリヤ」沿線一帯ノ秩序回復スルニ非レハ当分投資ヲ見合ス意向ナルカ如シ

管下発動機製作工場ハ今後漁業係ノ好望ヲ予期シテ活気ヲ帯ヒ来リ護謨工業亦修交後ノ好転ヲ予想シツツアリ

綿糸布生産ノ鐘紡ニ於テハ目下露国将来ノ生産ニ資スヘク製品取引先ナル鈴木商店日本綿花会社其他ニ就キ其対露市場開拓ノ意図ヲ確ムルニ努メ管下日本毛織株式会社ハ対露取引開始ノ準備計画ニ着手セル模様アリ

又従来米国ヨリ輸入シ目下為替ノ悪化ニ禍セラレツツアル製紙原料パルプヲ露国ヨリ直接輸入スルニ至ラハ頗ル好果ヲ齎スヘク既ニ命数定マリトシテ悲観サレツツアリシ炭坑油田ノ採掘ハ我産業界ニ対シテ有効ナル効力ヲ供給スヘシトテ一般斯業者間多大ノ期待ヲ以テ今後ノ形勢観望中ニ在リ

四、金融界ノ影響

未タ協約ノ反響ト見ルヘキ現象ナク将来日露通商上難関タル国際貸借決済ノ金融関係ハ日銀正金等ノ主掌スル所ナルヲ以テ諸銀行個々ノ金融対策モ之等之方針ニ須応スル外ナク労農政府ハ従来銀行設立不許可ノ方針ヲ採レルカ為ニ浦潮方面ニ於テモ只朝鮮銀行ノミ極東全権ノ諒解ヲ得テ例外的ニ鮮銀券ノ流通ヲ継続シ来レルモ暗号電報ノ禁止等ノ為ニ鮮銀其他取引者ニ於テ非常ノ困惑ヲ来シ商取引ノ如キモ従来露国ハ最短六ケ月ニシテ民間取引ノ如キ労農政府ハ直営機関ヲ設ケタルモ尚最短三ケ月位ニシテ且種々名目ヲ以テ過大ノ税金手数料ヲ徴収セラルルカ為メニ経済的ニ同国民ハ現在極度ニ疲弊シ購買力ノ乏シキヲ以テ通商開始サルルモ正貨ノ輸入ハ到底不可能ニシテ寧ロ本邦大資本団ノ投資開発ニ俟ツ所多ケレハ一時資本ノ流出ヲ見多少ノ引締ヲ呈スヘキモ金融緩漫ノ現況ニ於テハ大ナル影響ナカルヘシ

投資ニ依リテ工業原料ノ豊富ト内地供給ノ潤沢ヲ来シ更ニ海外輸出ノ旺勢ニヨリテ入超ヲ防止シ得レハ数年後ノ金融界ニハ好果ヲ齎ス可ク更ニ露国カ列国ト通商ヲ開始シ其貨幣価値安定スルニ至ラハ我国貿易ニ及ホス利益大ナルモノアランモ然ラサル間ハ漁業炭坑林業油田等ノ企業ハ比較的早ク効果ヲ収ム可キモ全般ニ亘リテ好転シ来ルハ尚遼遠ナリト思惟セルモノ多ク今後右利権ヲ有利ニ解決サルルニ非レハ投資上ノ不安ハ芟除セラレストシテ当業者ハ細目協定等ノ状勢観望中ニ在リ

五、投機取引界ニ及ホセル影響

今次ノ日露協約カ財界ニ対シ好影響ヲ及ホスモノトノ直覚ヨリシテ投機取引界ハ昨年末既ニ其予報ニ依リテ各種株券一、二割方ノ反撥ヲ見就中対露関係ニ在ル日本石油久原鉱業日露漁業樺太工業秋田木材満鉄会社株券等二、三割以上ノ昂騰ヲ告ケタルモ協約成立後ニ於テハ是等対露関係以外

ノ一般株ハ漸落ノ状勢ヲ示セリ是レ安定ナル商取引ヲ可能ナラシムル産業組織並ニ国際貸借決済ノ金融機関ノ施設ヲ見サル限リ投機取引界ノ活況ハ未タ夢想ニ過キサル事ノ証左ナルヘシト斯業者ニ漏ラシ居レリ

六、一般民ノ反響

我国政治外交経済方面ノ難関ニ逢着セルニ当リ国民ノ斉シク熱望シテ止マサリシ日露親善ノ恢復ニ依リ米国移民問題等ノ重要ナル国際政局ニ尠カラサル衝動ヲ与ヘ且ツ経済方面亦地理的優勝条件ヲ具備シ西欧トノ交通通信ハ自由敏速トナリテ取引増進ニ至大ノ好果ヲ促スヘシトシテ一般民衆異常ノ歓喜ト期待ヲ以テ迎ヘツツアルカ一面露国産業ノ直営主義ハ所謂共産主義ノ形ニ於テ労農専断ノ内容ヲ有スルモノトセハ世界産業組織ノ変遷ニ対シ試験的ノモノナルト同時ニ「ボルシェヴィズム」対「キャピタリズム」ノ戦トシテ種々ノ波紋ヲ誘起スヘク殊ニ曩ニ英国政府カ露国ノ真状調査員ヲ密派シテ其実状ヲ内査シ世人想像以上ノ報告ヲ得ルカ如キ従来国際主義ヲ重ンセサリシ露国ト親善ノ度ヲ深クスルニ連レ世界赤化ノ計画アル「レニン」一派ノ第三インターナショナルヨリスル過激思想ノ輸入ヲ如何ニ警戒ヲ圧ヘテ永ク米国ニ追従セシメント自信シ夫レカ為ニ華府会議ノ支那問題処理ニ当リ日本ヲ支持シ又移民問題ニ付日本ノ好感ヲ維持スルニ努メタルモ是等ノ政策ハ却テ支那ニ対スル米国ノ威信ヲ失墜シ同氏政策ノ基調ヲ破壊スル日露協定ノ出現トナリ悉ク日本ノミノ利益トナレリ同氏政策ノ失敗ハ米国ノ対露承認ノ気運ヲ促進スルモノト認ムルモノ多シト論ス

三四七　三月七日　在独国本多大使ヨリ　幣原外務大臣宛

日ソ条約成立ニ伴フ国際関係ノ変化ニ論及セル新聞論説報告ノ件

本第四四号　（四月十八日接受）

大正十四年三月七日

在独

特命全権大使　本多　熊太郎（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

日露条約ニ対スル独逸新聞論調ニ関スル件

日露新条約ニ対スル当地新聞ノ論調等ハ其都度及御報告候処三月四日「ベルリーナー・ベルゼン・クリエー（Berlin-

スヘキヤニ干シ一般民衆杞憂ニ駆ラレ居レリ

三四六　三月一日（着）　在米国吉田臨時代理大使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

米国ノ極東政策ト日ソ条約トノ関連ヲ論ゼル新聞論調報告ノ件

第八一号

二十七日新聞報

二十六日「バルチモア・イブニング・サン」ハ華府特信トシテ陸海軍方面ニテハ日露協定ハ太平洋ニ於ケル米海軍ノ安危ニ係ルモノトシ実業界ニテハ対極東貿易ヲ害スルモノトシ平和論者ハ将来国際紛争ノ基ヲ包蔵スルモノトシ鮮カラス不安ヲ感シ居レリ元来米国ノ極東政策ハ日露支三国ノ接近ヲ妨クルニ在リシ処「ヒューズ」ノ誤レル政策ハ日本ノ利用スル処トナリ日本ハ今ヤ日露協定ニ依リ極東ノ製造工業以上ノ独占ヲ確保スルニ充分ナル軍備ヲ持シ得ヘキ地歩ヲ獲得セリ露国ハ領土的野心アル日本ニ西比利亜ノ利権ヲ与フルヨリモ米国ニ之ヲ託センコトヲ熱望シタルニ「ヒューズ」ノ政策ニ禍セラレテ莫大ナル「シンクレア」利権スラ取消サレントス抑々「ヒューズ」ハ対露政策ニ付日本er Börsen Courier)」紙上ニ於テ「オットー・コールバッハ（Otto Corbach）」ノ署名ノ下ニ日露条約ニ伴フ国際関係ニ関シ「東京―北京―莫斯科」ト題シ大要別紙ノ如ク論評致居候ニ付何等御参考迄ニ茲ニ御報告申進候

敬具

（別紙）

日露新条約カ世界ノ外交上如何ニ重大ナル意義ヲ有スルカハ客年十二月以来起レル英米両国ノ顕著ナル親日的傾向ニヨリ最善ク之ヲ察知スルヲ得ヘシ即チ両国ハ支那内乱カ其ノ予想ニ反シ親英米派ノ没落ニ終リタルニヨリ当分日本ヲ支那ヨリ排斥スルノ至難ナルハ勿論日露ノ接近モ亦到底避クヘカラサルノ形勢ナルヲ看取シ此上ハ極力日露支三国ノ反「アングロサクソン」的提携ヲ阻害スルノ方針ニ出ツルコトノ最賢明ナルヲ自覚シタルモノト察セラル英国保守党内閣カ最近労農露国ト商議再開ノ意思アルヲ声明シ又米国大統領カ労農露国反対者タル「ヒューズ」氏ヲ去リテ年来ノ露国承認論者タル現上院外交委員長タル「ボラー」ニ接近セント決意スルニ至レル将又駐支米国公使「シャーマン」カ客臘米国ヨリ帰任ノ途次上海ニテ為シタル演説カ同地英

米人ノ予想ニ反シ何等米国将来ノ対支外交硬化ニ言及セスシテ痛ク彼等ヲ失望セシメタル等皆如上ノ傾向ヲ説明スルニ足ルモノト言フヘシ

次ニ極東ニ於テ英米両国ヲ危険ニ陥レタルハ日露ノ接近ヨリモ寧ロ最近支那動乱ノ結果支那ニ於ケル両国共同ノ立場ヲ喪失セシメタルニ因ル之ニ反シ日露ハ両者各其立場ヲ異ニスルモ必シモ支那政変ニ伴フ混乱ヲ恐レサルハ其ノ軌ヲ一ニス蓋シ露国ハ之ニ依リ亜細亜ニ共産主義実現ノ機会ヲ得ヘキヲ喜ヒ支那伝統ノ秩序破壊ノ如キハ固ヨリ介意スル所ニ非ス又日本ハ其ノ朝鮮及満州ニ於ケル直接緊要ナル利益ヲ擁護シ得ル限リ支那ノ政治的混乱ノ如キハ支那ニ於ケル英米ノ商業的勢力ヲ駆逐スルモノトシテ寧ロ之ヲ歓迎スレハナリ

然レ共日本モ亦必シモ楽観ヲ許サス数年来支那及日本ニ於テハ工業並工業原料品農業ノ異常ナル進歩ヲ見タルモ農村ノ疲弊其ノ極ニ達シ物価ノ昂騰ハ貧富ノ懸隔ト相俟ツテ人心ヲ著シク革命的ナラシメタリ但シ日本ハ国家的基礎堅固ナル結果国内ノ不平ヲ海外発展ニ転スルノ可能性アルモ支那ニ於テハ然ラス新政府ノ基礎全ク不安定ニシテ何人モ遠カラス新政変ノ到来ヲ予想スルノミナラス早クモ孫逸仙、馮玉祥一派カ北京ニ革命的政府ヲ樹立シ以テ不対等条約殊ニ治外法権ノ撤廃ヲ企図シツツアリトノ浮説頻リニ伝ヘラレツツアリ

英国殊ニ夙ニ支那ニ第二ノ「ドーズ」案実施ヲ準備シツツアリトノ風評専ラナル米国カ決シテ今回ノ失敗ニヨリ支那ヲ見限リタルモノニ非ス否最近ノ日露ニ対スル親善的態度ノ如キモ畢竟此際日露ノ反感ヲ挑発スルハ将来支那ニ於テ再起シ得ヘカラサルノ破綻ヲ招クコトアルヘキヲ恐ルルノ結果ニ外ナラス従テ英米トシテハ徐ロニ時機ヲ待ツテ日露ノ陰謀ニ対抗シウル支那有力者ヲ支援シ支那ニ其ノ懐抱スル組織的大計画（例ヘハ米国ニ於テ支那全国ニ近代的農業的信用組合網ヲ張ルノ計画アリ）ヲ実行セシムルノ計ヲ為スコト極メテ肝要ナルヘシ

三四八　四月二日　在サン・フランシスコ武富総領事ヨリ幣原外務大臣宛

日ソ条約及ビ太平洋問題ニ関スルロンドン特電新聞記事送付ノ件

公第二二五号　（四月二十二日接受）

大正十四年四月二日

在桑港

総領事　武富　敏彦（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

日露条約及太平洋問題ニ関スル「ロンドン」特電新聞記事切抜送付ニ関スル件

四月二日ノ当地「クロニクル」紙ハ左ノ諸項ニ関スル同紙「ロンドン」特電ヲ掲載致居候ニ付テハ右切抜（省略）及御送付候也

一、英国ニテハ最近締結サレタル日露条約ヲ以テ両国ノ連合国側ニ対スル背信行為ト看做シ居ル事

二、英国有識者ハ「白人太平洋主義（ホワイトパシフィック）」ノ為メ早晩争闘ノ起ル事ヲ予期シツツアル事

三、日本ハ密ニ海軍軍備拡張ヲ図リツツアリトノ報告ニ関スル事

四、英国海軍側ニテハ米国海軍ノ太平洋大演習ハ太平洋ニ於ケル英米両国ノ共同政策ヲ執ル前提ト信シ居ル事

本信写送付先　在米大使